*Syllabus 2025*

# 授業計画

2025 年度 シラバス

## 作業療法学科

Occupational Therapist

学校法人　湘南ふれあい学園
茅ヶ崎リハビリテーション専門学校

| 科目名 | 運動学Ⅱ | 対象学科 | | 作業療法学科 | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | 開講学年 | | 2学年 | |
| 指定規則科目区分 | 専門基礎分野 | 講義形態 | 講義 | 単位 | 2単位 |
| | 人体の構造と機能及び心身の発達 | コマ数 | 30コマ | 時間数 | 60時間 |
| 担当教員<br>（◎印は科目責任者） | ◎神保匡良 | | | | |
| 授業概要 | 人体の運動を力学的観点から学習する | | | | |
| 到達目標 | 下肢・体幹の運動の仕組みを理解する<br>重心と反力、モーメントの概念を活用し、動作の分析が出来る<br>運動に関与する神経基盤／運動に伴う循環器系の変化／エネルギー代謝を理解する<br>姿勢や歩行を動作分析的視点で見ることが出来る | | | | |
| 教科書 | 基礎運動学第6版【医歯薬出版】 | | | | |
| 参考書 | プロメテウス解剖学アトラス運動器系【医学書院】 | | | | |

| 成績評価方法 | 中間試験 | 定期試験 | | 計 |
|---|---|---|---|---|
| | 50点 | 50　点 | 点 | 点 |

| 授業計画 | | 講師名 |
|---|---|---|
| 第1回 | 股関節の関節構造と靭帯の作用を理解する | 神保 |
| 第2回 | 股関節の関節構造を理解する | 神保 |
| 第3回 | 股関節の筋の作用を理解し空間的に出来る | 神保 |
| 第4回 | 股関節の筋の作用を理解し空間的に出来る | 神保 |
| 第5回 | 膝関節と靭帯の作用を理解する | 神保 |
| 第6回 | 膝関節構造を理解する | 神保 |
| 第7回 | 膝筋の作用を空間的に理解する | 神保 |
| 第8回 | 足関節の関節構造と靭帯の作用を理解する<br>足の筋の作用を理解し空間的に出来る | 神保 |
| 第9回 | 足のアーチ構造を理解し、アーチを支えている仕組みを理解する | 神保 |
| 第10回 | 運動学習の理論 | 神保 |
| 第11回 | 運動学習の理論 | 神保 |
| 第12回 | エネルギー代謝（カロリー／基礎代謝／エネルギー代謝率／代謝当量） | 神保 |
| 第13回 | 筋のエネルギー代謝 | 神保 |
| 第14回 | 復習課題 | 神保 |
| 第15回 | 前半まとめ | 神保 |
| 備考 | | |

| 授業計画 | | 講師名 |
|---|---|---|
| 第 16 回 | 顎関節の運動学 | 神保 |
| 第 17 回 | 頸部～体幹の運動学 | 神保 |
| 第 18 回 | 頸部～体幹の運動学 | 神保 |
| 第 19 回 | 呼吸の運動学 | 神保 |
| 第 20 回 | 呼吸の運動変化（呼吸生理学） | 神保 |
| 第 21 回 | 運動学的分析の手順を理解する | 神保 |
| 第 22 回 | 第 21 回の内容を踏まえ、重心・姿勢と筋活動を分析的に理解する | 神保 |
| 第 23 回 | 第 21 回の内容を踏まえ、重心・姿勢と筋活動を分析的に理解する | 神保 |
| 第 24 回 | 歩行周期を理解する | 神保 |
| 第 25 回 | 歩行周期の角度変化について理解する<br>（股関節・膝関節・足関節・骨盤） | 神保 |
| 第 26 回 | 歩行周期における床反力・重心移動の変化を理解する | 神保 |
| 第 27 回 | 歩行周期における筋活動を理解する | 神保 |
| 第 28 回 | 小児と高齢者の歩行について理解を深める | 神保 |
| 第 29 回 | 復習課題 | 神保 |
| 第 30 回 | 後半まとめ | 神保 |
| 備考 | | |

| 科目名 | 人間発達学 | 対象学科 | | 作業療法学科 | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | 開講学年 | | 2 学年 | |
| 指定規則科目区分 | 専門基礎分野 | 講義形態 | 講義 | 単位 | 2 単位 |
| | 人体の構造と機能及び心身の発達 | コマ数 | 15 コマ | 時間数 | 30 時間 |
| 担当教員<br>(◎印は科目責任者) | ◎　黒住　享弘 | | | | |
| 授業概要 | 人間の誕生から死に至るまでの心の成長・変化を学ぶ | | | | |
| 到達目標 | 発達理論や研究法に対する正しい知識を身につける<br>正常発達に関する各期の特長を学ぶ | | | | |
| 教科書 | 標準理学療法学・作業療法学専門基礎分野　人間発達学　（第２版） | | | | |
| 参考書 | はじめての臨床心理学【北樹出版】 | | | | |

| 成績評価方法 | 定期試験 | | | 計 |
|---|---|---|---|---|
| | 100　点 | 点 | 点 | 100 点 |
| 予習･復習のﾎﾟｲﾝﾄ | | | | |

| | 授業計画 | 講師名 |
|---|---|---|
| 第 1 回 | 発達の概念　　発達理論　生涯発達心理学の分類　生物学的発達の特徴 | 黒住 |
| 第 2 回 | 心理学的発達の歴史Ⅰ　　ハヴィガーストの発達課題　ピアジェの思考発達段階説 | 黒住 |
| 第 3 回 | 心理学的発達の歴史Ⅱ　　フロイトのリビドー発達段階理論<br>エリクソンの心理社会発達段階（ライフサイクル論） | 黒住 |
| 第 4 回 | 生涯発達心理学研究法　　横断研究　縦断研究<br>コホート研究法　発達の規定要因　測定法 | 黒住 |
| 第 5 回 | 遺伝と環境　　遺伝と環境　運動の発達　人間からヒトへ　学習 | 黒住 |
| 第 6 回 | 新生児期　　臨界期　インプリンティング　先行注視法 | 黒住 |
| 第 7 回 | 乳児期　乳児の聴覚　乳児の記憶　ボウルビィの愛着理論 | 黒住 |
| 第 8 回 | 幼児期Ⅰ　　安全基地　言葉の発達　脱自己中心化　自己認知 | 黒住 |
| 第 9 回 | 幼児期Ⅱ　　遊びと発達　誤信念課題　コールバーグの道徳判断発達段階 | 黒住 |
| 第 10 回 | 児童期　自己・他者認知と仲間関係の発達　児童分析 | 黒住 |
| 第 11 回 | 青年期Ⅰ　　５つの発達課題　価値観の確立と自我同一性 | 黒住 |
| 第 12 回 | 青年期Ⅱ　　青年期の発達段階（親子関係・友人関係・知的機能）<br>思春期危機　自我同一性拡散 | 黒住 |
| 第 13 回 | 成人期　ライフコースの多様性（職業生活・家族計画）　中年期の心的問題 | 黒住 |
| 第 14 回 | 老年期　エイジングとパーソナリティ　老年期の知的機能と死への対応 | 黒住 |
| 第 15 回 | まとめ | 黒住 |
| 備考 | 主に終講テストを基準とし、授業態度・提出物等を含めた上で総合評価・判断する | |

| 科目名 | 病理学 | 対象学科 | | 作業療法学科 | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | 開講学年 | | 2 学年 | |
| 指定規則科目区分 | 専門基礎分野 | 講義形態 | 講義 | 単位 | 1 単位 |
| | 疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進 | コマ数 | 15 コマ | 時間数 | 30 時間 |
| 担当教員<br>(◎印は科目責任者) | ◎　代田　欣二 | | | | |
| 授業概要 | ヒトの基本的病変の成立機序と病態形成過程に関する基本的知識を学ぶ。 | | | | |
| 到達目標 | 医療従事者として、病気の原因や病変の成り立ち、転帰を理解する。医学で用いられる病理用語を正確に理解し、使えるようにする。 | | | | |
| 教科書 | 標準理学療法学・作業療法学　専門基礎分野　病理学　第 4 版【医学書院】 | | | | |
| 参考書 | 必要に応じて資料を配布する。 | | | | |
| 成績評価方法 | 定期試験 | | | 計 | |
| | 100　点 | 点 | 点 | 100 点 | |
| 予習･復習のﾎﾟｲﾝﾄ | 指定した教科書や配布資料を繰り返し読んで、予習・復習のために役立ててほしい。 | | | | |

| 授業計画 | | 講師名 |
|---|---|---|
| 第 1 回 | 総論－病理学の概要（第 1 章)、病因論（第 2 章）について解説する。 | 代田 |
| 第 2 回 | 総論－退行性病変、進行性病変（第 3 章）について解説する。 | 代田 |
| 第 3 回 | 総論－代謝障害（第 4 章)：蛋白質・アミノ酸、核酸、脂質、糖質、無機物質、色素代謝異常について解説する。 | 代田 |
| 第 4 回 | 総論－循環障害（第 5 章)：体液循環機構、局所循環障害、全身循環障害について解説する。 | 代田 |
| 第 5 回 | 総論－免疫（第 6 章)：免疫の概念、免疫の成立、免疫反応による傷害・炎症、移植免疫について解説する。 | 代田 |
| 第 6 回 | 総論－炎症と感染症（第 7 章)：炎症、感染症について解説する。 | 代田 |
| 第 7 回 | 総論－腫瘍（第 8 章)：腫瘍の定義と分類、腫瘍の形態、悪性腫瘍の進展形式、腫瘍発生の原因、発がんメカニズムについて解説する。 | 代田 |
| 第 8 回 | 総論－老化（第 9 章)：生理的老化・寿命、加齢による生理的老化、加齢と疾患について解説する。先天異常・奇形（第 10 章)：先天異常・奇形の概念、遺伝子異常と遺伝性疾患、染色体異常、奇形について解説する。 | 代田 |
| 第 9 回 | 各論－循環器（第 1 章)：主な循環器疾患について解説する。 | 代田 |
| 第 10 回 | 各論－呼吸器（第 2 章)：主な呼吸器疾患について解説する。 | 代田 |
| 第 11 回 | 各論－消化器（第 3 章)：主な消化器疾患について解説する。 | 代田 |
| 第 12 回 | 各論－神経系（第 4 章)・運動器（第 5 章)：主な神経系・運動器疾患について解説する。 | 代田 |
| 第 13 回 | 各論－泌尿器・生殖器（第 6 章)、内分泌臓器（第 7 章)：主な泌尿器・生殖器、内分泌疾患について解説する。 | 代田 |
| 第 14 回 | 各論－造血器（第 8 章)、皮膚・感覚器（第 9 章)：主な造血器、皮膚・感覚器疾患について解説する。 | 代田 |
| 第 15 回 | まとめ | 代田 |
| 備考 | 内容が多いため、総論の授業においても具体的な疾患について触れるので、<br>各自その都度各論の該当部分を勉強してほしい。 | |

| 科目名 | 臨床心理学 | 対象学科 | | 作業療法学科 | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | 開講学年 | | 2 学年 | |
| 指定規則科目区分 | 専門基礎分野 | 講義形態 | 講義 | 単位 | 1 単位 |
| | 疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進 | コマ数 | 15 コマ | 時間数 | 30 時間 |
| 担当教員<br>(◎印は科目責任者) | ◎　黒住　享弘 | | | | |
| 授業概要 | 臨床心理学における基礎的な側面についての学習を進める。さらに対人援助職において、臨床心理学的な視点を持つことの重要性についても理解を深めることを目的とする。 | | | | |
| 到達目標 | 生涯発達の視点にたった人間の心身の発達過程の理解すること<br>臨床心理学的なアセスメントを理解すること<br>臨床心理学的なセラピーについて理解すること | | | | |
| 教科書 | はじめての臨床心理学【北樹出版】 | | | | |
| 参考書 | | | | | |

| 成績評価方法 | 定期試験 | | | 計 |
|---|---|---|---|---|
| | 100　点 | 点 | 点 | 100 点 |

| 予習･復習のﾎﾟｲﾝﾄ | 配布資料を軸に教科書の解説を加えた形式にて授業を進めるため、予習復習ともに教科書の内容に目を通すことをポイントとする。 |
|---|---|

| 授業計画 | | 講師名 |
|---|---|---|
| 第 1 回 | 臨床心理学とは<br>臨床心理学とは何か、心理学とは何か？ | 黒住 |
| 第 2 回 | フロイトと心理学<br>フロイト、防衛機制 | 黒住 |
| 第 3 回 | 臨床心理学の歴史<br>欧米及び日本の臨床心理学の歴史 | 黒住 |
| 第 4 回 | 心理療法　Ⅰ<br>精神分析（フロイト）・分析心理学（ユング）など | 黒住 |
| 第 5 回 | 心理療法　ⅠⅠ<br>心理療法（精神分析・分析心理学以外） | 黒住 |
| 第 6 回 | 精神力動と認知行動療法<br>精神力動と認知行動療法 | 黒住 |
| 第 7 回 | 学習理論<br>学習理論及び行動療法 | 黒住 |
| 第 8 回 | 人間性心理学<br>クライアント中心療法 | 黒住 |
| 第 9 回 | 心理療法の基礎<br>心理療法とカウンセリングの違い、基本的な態度など | 黒住 |
| 第 10 回 | 発達臨床心理学<br>心理発達・ライフサイクルについて | 黒住 |
| 第 11 回 | 心理アセスメントとは<br>心理アセスメントについて | 黒住 |
| 第 12 回 | 心理検査各論　Ⅰ<br>心理検査の説明－知能検査 | 黒住 |
| 第 13 回 | 心理検査各論　ⅠⅠ<br>心理検査の説明－人格検査 | 黒住 |
| 第 14 回 | 体験学習<br>エゴグラムなど | 黒住 |
| 第 15 回 | まとめ | 黒住 |
| 備考 | | |

| 科目名 | 内科学Ⅰ | 対象学科 | | 作業療法 | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | 開講学年 | | 2学年 | |
| 指定規則科目区分 | 専門基礎分野 | 講義形態 | 講義 | 単位 | 1単位 |
| | 疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進 | コマ数 | 15コマ | 時間数 | 30時間 |
| 担当教員<br>(◎印は科目責任者) | ◎　曲　寧 | | | | |
| 授業概要 | 将来目指しているPT・OT業務の、円滑な実践に役立ちうる内科学の一般的知識を修得する。 | | | | |
| 到達目標 | 内科学は医学の中心的学問である。内科疾患は、主としておかされる臓器の系統別によって、呼吸器系・循環器系・消化器系・内分泌系・泌尿器系・神経系疾患などに分類される。講義を通して内科的疾患を単に暗記するだけでなく、病態生理学に基づいて理解する。 | | | | |
| 教科書 | 『標準理学療法学・作業療法学　専門基礎分野　内科学』(医学書院) | | | | |
| 参考書 | | | | | |

| 成績評価方法 | 定期試験 | 小テスト | | 計 |
|---|---|---|---|---|
| | 100　点 | 点 | 点 | 100点 |

| 予習･復習のﾎﾟｲﾝﾄ | 配付資料・参考書を活用し予習復習すること |
|---|---|

| 授業計画 | | 講師名 |
|---|---|---|
| 第1回 | 呼吸器疾患（呼吸器の解剖生理、呼吸器疾患各論） | 曲 |
| 第2回 | 呼吸器疾患（呼吸器疾患各論） | 曲 |
| 第3回 | 循環器疾患（循環器の解剖生理、循環器疾患各論） | 曲 |
| 第4回 | 循環器疾患（循環器疾患各論） | 曲 |
| 第5回 | 循環器疾患（循環器疾患各論） | 曲 |
| 第6回 | 消化器疾患（消化器の解剖生理、消化器疾患各論） | 曲 |
| 第7回 | 消化器疾患（消化器疾患各論） | 曲 |
| 第8回 | 消化器疾患（消化器疾患各論） | 曲 |
| 第9回 | 代謝・内分泌疾患（内分泌系の解剖生理、代謝・内分泌疾患各論） | 曲 |
| 第10回 | 代謝・内分泌疾患（代謝・内分泌疾患各論） | 曲 |
| 第11回 | 泌尿器疾患（泌尿器の解剖生理、泌尿器疾患各論） | 曲 |
| 第12回 | 免疫・アレルギー疾患（免疫系の解剖生理、アレルギー疾患・リウマチ性疾患各論） | 曲 |
| 第13回 | 血液疾患（血液の形態と生理、血液疾患各論） | 曲 |
| 第14回 | 血液疾患（血液疾患各論） | 曲 |
| 第15回 | まとめ | 曲 |
| 備考 | | |

| 科目名 | 内科学Ⅱ | 対象学科 | | 作業療法学科 | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | 開講学年 | | 2 学年 | |
| 指定規則科目区分 | 専門基礎分野 | 講義形態 | 講義 | 単位 | 1 単位 |
| | 疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進 | コマ数 | 15 コマ | 時間数 | 30 時間 |
| 担当教員<br>（◎印は科目責任者） | ◎　西戸　輝彦、辻　正富、武市　尚也 | | | | |
| 授業概要 | 各代謝機能を通じて、検査データの読み方を学ぶ | | | | |
| 到達目標 | 基本的な検査データとその臨床的意義を習得する | | | | |
| 教科書 | | | | | |
| 参考書 | プリントを配布 | | | | |
| 成績評価方法 | 定期試験 | | | 計 | |
| | 100　点 | 点 | 点 | 100 点 | |
| 予習･復習のﾎﾟｲﾝﾄ | 教科書をよみ、配布するプリントで復習する | | | | |

| | 授業計画 | 講師名 |
|---|---|---|
| 第 1 回 | 肝臓の解剖と代謝の基礎 | 西戸 |
| 第 2 回 | 腎臓の解剖と代謝の基礎 | 西戸 |
| 第 3 回 | 腎臓に関する検査 | 西戸 |
| 第 4 回 | 造血器 | 西戸 |
| 第 5 回 | 心臓の解剖と代謝の基礎 | 西戸 |
| 第 6 回 | 心電図検査の読み方 | 西戸 |
| 第 7 回 | 心電図の基礎　心電図とは | 西戸 |
| 第 8 回 | 肺の解剖と代謝の基礎 | 西戸 |
| 第 9 回 | 肺機能検査の読み方 | 西戸 |
| 第 10 回 | 講義総括 | 西戸 |
| 第 11 回 | 心臓リハビリテーション　1 | 武市 |
| 第 12 回 | 心臓リハビリテーション　2 | 武市 |
| 第 13 回 | がんについて | 西戸 |
| 第 14 回 | 小児の心臓病 | 辻 |
| 第 15 回 | まとめ | 西戸 |
| 備考 | 授業計画（講義内容）の順番が変わることがあります。 | |

| 科目名 | 神経内科学Ⅰ | 対象学科 | | 作業療法学科 | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | 開講学年 | | 2学年 | |
| 指定規則科目区分 | 専門基礎分野 | 講義形態 | 講義 | 単位 | 1単位 |
| | 疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進 | コマ数 | 15コマ | 時間数 | 30時間 |
| 担当教員<br>(◎印は科目責任者) | ◎　廣瀬　好文 | | | | |
| 授業概要 | 中枢・末梢神経系の解剖・生理を基礎として神経・筋の変性疾患を解説する。 | | | | |
| 到達目標 | 神経・筋の変性疾患を基礎的な解剖・生理の知識を土台にして理解する。 | | | | |
| 教科書 | 病気がみえる vol.7 脳・神経【メディックメディア】 | | | | |
| 参考書 | プリント配布 | | | | |

| 成績評価方法 | 定期試験 | | | 計 |
|---|---|---|---|---|
| | 100　点 | 点 | 点 | 100点 |

| 予習･復習のﾎﾟｲﾝﾄ | 教科書で予習し配布するプリントで復習すること |
|---|---|

| | 授業計画 | 講師名 |
|---|---|---|
| 第1回 | 神経系の全体像と大脳皮質（１） | 廣瀬 |
| 第2回 | 神経系の全体像と大脳皮質（２） | 廣瀬 |
| 第3回 | 大脳辺縁系・大脳基底核・間脳・脳幹・小脳 | 廣瀬 |
| 第4回 | 中枢神経系の血管とその障害 | 廣瀬 |
| 第5回 | 運動麻痺・不随意運動・運動失調 | 廣瀬 |
| 第6回 | 感覚 | 廣瀬 |
| 第7回 | 自律神経 | 廣瀬 |
| 第8回 | 末梢神経とその障害 | 廣瀬 |
| 第9回 | 神経変性疾患　パーキンソン病・パーキンソン症候群・ハンチントン病 | 廣瀬 |
| 第10回 | 神経変性疾患　認知症 | 廣瀬 |
| 第11回 | 神経変性疾患　脊髄小脳変性・筋委縮性側索硬化症 | 廣瀬 |
| 第12回 | 脱髄疾患　多発性硬化症・ギャランバレー症候群 | 廣瀬 |
| 第13回 | 筋疾患 | 廣瀬 |
| 第14回 | 脊髄椎・脊柱疾患 | 廣瀬 |
| 第15回 | まとめ | 廣瀬 |
| 備考 | | |

| 科目名 | 神経内科学Ⅱ | 対象学科 | | 作業療法学科 | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | 開講学年 | | 2 学年 | |
| 指定規則科目区分 | 専門基礎分野 | 講義形態 | 講義 | 単位 | 1 単位 |
| | 疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進 | コマ数 | 15 コマ | 時間数 | 30 時間 |
| 担当教員<br>(◎印は科目責任者) | ◎　石井　映幸、伊藤　恒 | | | | |
| 授業概要 | 臨床神経学を病気の成り立ちから解説する。<br>実際の症例を用い、基礎医学の知識を臨床医学へ応用できる力を身につける。 | | | | |
| 到達目標 | 国家試験に出題される範囲を押さえつつ、基礎医学の知識を臨床医学へ応用できるようにする。 | | | | |
| 教科書 | 病気が見える VOL7　脳･神経　【メディックメディア】 | | | | |
| 参考書 | | | | | |

| 成績評価方法 | 定期試験 | | | 計 |
|---|---|---|---|---|
| | 100　点 | 点 | 点 | 100 点 |

| 予習･復習のﾎﾟｲﾝﾄ | 予習は教科書、復習は配布プリントを読み、理解し辛い箇所は講師に質問する |
|---|---|

| | 授業計画 | 講師名 |
|---|---|---|
| 第 1 回 | 脳血管障害 基礎 | 伊藤 |
| 第 2 回 | 脳血管障害 演習Ⅰ | 伊藤 |
| 第 3 回 | 脳血管障害 演習Ⅱ | 伊藤 |
| 第 4 回 | 頭痛・髄膜炎・めまい | 伊藤 |
| 第 5 回 | 神経変性疾患 | 伊藤 |
| 第 6 回 | 脱髄性疾患 | 伊藤 |
| 第 7 回 | 末梢神経 神経筋接合部疾患 筋疾患 | 伊藤 |
| 第 8 回 | 脳卒中Ⅰ（脳梗塞、脳出血、くも膜下出血） | 石井 |
| 第 9 回 | 脳卒中Ⅱ（くも膜下出血の治療） | 石井 |
| 第 10 回 | 水頭症（症状と治療） | 石井 |
| 第 11 回 | 脳腫瘍Ⅰ（悪性腫瘍） | 石井 |
| 第 12 回 | 脳腫瘍Ⅱ（良性腫瘍） | 石井 |
| 第 13 回 | 頭部外傷・脳ヘルニア | 石井 |
| 第 14 回 | 意識障害・脳死 | 石井 |
| 第 15 回 | まとめ | |
| 備考 | | |

| 科目名 | 整形外科学Ⅰ | 対象学科 | | 作業療法学科 | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | 開講学年 | | 2学年 | |
| 指定規則科目区分 | 専門基礎分野 | 講義形態 | 講義 | 単位 | 1単位 |
| | 疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進 | コマ数 | 15コマ | 時間数 | 30時間 |
| 担当教員<br>(◎印は科目責任者) | ◎　阿部　幸一郎、菅原　仁 | | | | |
| 授業概要 | 整形外科疾患の病態生理、検査、治療を学ぶ | | | | |
| 到達目標 | 理学療法・作業療法を実施するに必要な整形外科疾患の基礎事項を修得する | | | | |
| 教科書 | 標準　理学療法学作業療法学　整形外科学【医学書院】 | | | | |
| 参考書 | なし | | | | |

| 成績評価方法 | 定期試験 | | | 計 |
|---|---|---|---|---|
| | 100　点 | 点 | 点 | 100点 |

| 予習･復習のﾎﾟｲﾝﾄ | 予習復習には教科書を活用すること |
|---|---|

| | 授業計画 | 講師名 |
|---|---|---|
| 第1回 | 総論<br>整形外科の基礎知識　1 | 菅原 |
| 第2回 | 総論<br>整形外科の基礎知識　2 | 菅原 |
| 第3回 | 総論<br>整形外科の基礎知識　3 | 菅原 |
| 第4回 | 総論<br>整形外科の基礎知識　4 | 菅原 |
| 第5回 | 総論<br>整形外科的治療法　1 | 菅原 |
| 第6回 | 総論<br>整形外科的治療法　2 | 菅原 |
| 第7回 | 各論<br>脊椎の疾患 | 阿部 |
| 第8回 | 各論<br>脊髄損傷 | 阿部 |
| 第9回 | 各論<br>代謝・内分泌疾患　1 | 阿部 |
| 第10回 | 各論<br>代謝・内分泌疾患　2 | 阿部 |
| 第11回 | 各論<br>循環障害と壊死性疾患　1 | 阿部 |
| 第12回 | 各論<br>循環障害と壊死性疾患　2 | 阿部 |
| 第13回 | 各論<br>先天性骨・関節疾患　1 | 阿部 |
| 第14回 | 各論<br>先天性骨・関節疾患　2 | 阿部 |
| 第15回 | まとめ | 阿部 |

| 備考 | 定期試験は2名の講師それぞれから50点満点の試験を課し、2つの試験の合計100点にて評価する |
|---|---|

| 科目名 | 整形外科学Ⅱ | 対象学科 | | 作業療法学科 | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | 開講学年 | | 2学年 | |
| 指定規則科目区分 | 専門基礎分野 | 講義形態 | 講義 | 単位 | 1単位 |
| | 疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進 | コマ数 | 15コマ | 時間数 | 30時間 |
| 担当教員<br>(◎印は科目責任者) | ◎　村仲　準一郎　松井　剛 | | | | |
| 授業概要 | 整形外科疾患の病態生理、検査、治療を学ぶ | | | | |
| 到達目標 | 理学療法・作業療法を実施するに必要な整形外科疾患の基礎事項を修得する | | | | |
| 教科書 | 標準　理学療法学作業療法学　整形外科学【医学書院】 | | | | |
| 参考書 | なし | | | | |
| 成績評価方法 | 定期試験 | | | 計 | |
| | 100　点 | 点 | 点 | 100点 | |
| 予習･復習のﾎﾟｲﾝﾄ | 予習復習には教科書を活用すること | | | | |

| 授業計画 | | 講師名 |
|---|---|---|
| 第1回 | 各論<br>脊髄損傷　1 | 村仲 |
| 第2回 | 各論<br>脊髄損傷　2 | 村仲 |
| 第3回 | 各論<br>骨・軟部腫瘍 | 松井 |
| 第4回 | 各論<br>神経・筋疾患 | 松井 |
| 第5回 | 各論<br>骨折　1 | 村仲 |
| 第6回 | 各論<br>骨折　2 | 村仲 |
| 第7回 | 各論<br>関節における外傷性疾患　1 | 松井 |
| 第8回 | 各論<br>関節における外傷性疾患　2 | 松井 |
| 第9回 | 各論<br>末梢神経における外傷性疾患　1 | 村仲 |
| 第10回 | 各論<br>末梢神経における外傷性疾患　2 | 村仲 |
| 第11回 | 各論<br>腱・靭帯における外傷性疾患 | 松井 |
| 第12回 | 各論<br>スポーツ障害 | 松井 |
| 第13回 | 各論<br>熱傷　切断および離断 | 松井 |
| 第14回 | 各論<br>脊椎の疾患 | 村仲 |
| 第15回 | まとめ | |
| 備考 | | |

| 科目名 | 臨床医学 | 対象学科 | | 作業療法学科 | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | 開講学年 | | 2 学年 | |
| 指定規則科目区分 | 専門基礎分野 | 講義形態 | 講義 | 単位 | 1 単位 |
| | 疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進 | コマ数 | 15 コマ | 時間数 | 30 時間 |
| 担当教員<br>(◎印は科目責任者) | ◎　廣瀬　好文、曲　寧、遠藤　朱美、木島　朝子 | | | | |
| 授業概要 | 各疾患の病態生理、検査、治療を学ぶ | | | | |
| 到達目標 | 各疾患の理学療法･作業療法を実施するに必要な医学的知識を習得する | | | | |
| 教科書 | 標準　理学療法学作業療法学　小児科学【医学書院】 | | | | |
| 参考書 | なし | | | | |

| 成績評価方法 | 定期試験 | | | 計 |
|---|---|---|---|---|
| | 100　点 | 点 | 点 | 100 点 |

| 予習･復習のﾎﾟｲﾝﾄ | 小児科学:予習復習には教科書を活用すること<br>その他診療科項目:復習は配布したプリント等活用すること |
|---|---|

| 授業計画 | | 講師名 |
|---|---|---|
| 第 1 回 | 小児科学<br>小児科学概論① | 曲 |
| 第 2 回 | 小児科学<br>小児科学概論② | 曲 |
| 第 3 回 | 外科<br>胸部悪性腫瘍 | 廣瀬 |
| 第 4 回 | 外科<br>末梢血管疾患 | 廣瀬 |
| 第 5 回 | 小児科学<br>先天異常と遺伝病 | 曲 |
| 第 6 回 | 耳鼻咽喉科学<br>嚥下障害 | 遠藤 |
| 第 7 回 | 小児科学<br>神経・筋疾患・骨系疾患① | 曲 |
| 第 8 回 | 耳鼻咽喉科学<br>嚥下障害 | 遠藤 |
| 第 9 回 | 小児科学<br>神経・筋疾患・骨系疾患② | 曲 |
| 第 10 回 | 耳鼻咽喉科学<br>めまい・顔面神経麻痺 | 遠藤 |
| 第 11 回 | 眼科<br>白内障・緑内障・糖尿病網膜症 | 木島 |
| 第 12 回 | 小児科学<br>消化器疾患、内分泌・代謝疾患 | 曲 |
| 第 13 回 | 外科<br>腹部悪性腫瘍 | 廣瀬 |
| 第 14 回 | 小児科学<br>循環器疾患・呼吸器疾患 | 曲 |
| 第 15 回 | まとめ | 廣瀬 |

| 備考 | 教科書は小児科学の講義で使用。他の診療分野はプリントを配付。<br>定期試験は、各講師から出題した試験を実施する。 |
|---|---|

| 科目名 | 精神医学 | 対象学科 | | 作業療法学科 | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | 開講学年 | | 2学年 | |
| 指定規則科目区分 | 専門基礎分野 | 講義形態 | 講義 | 単位 | 4単位 |
| | 疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進 | コマ数 | 30コマ | 時間数 | 60時間 |
| 担当教員<br>(◎印は科目責任者) | ◎　髙橋　知之 | | | | |
| 授業概要 | 作業療法士に必要な精神医学を学ぶ | | | | |
| 到達目標 | 作業療法を実施するために必要な<br>①精神医学の総論について説明できる<br>②精神症候学について説明できる<br>③各精神疾患について説明できる | | | | |
| 教科書 | 書籍名【出版社】精神医学第4版【医学書院】 | | | | |
| 参考書 | 書籍名【出版社】精神疾患の理解と精神科作業療法【中央法規】<br>現代臨床精神医学　【金原出版】適時配布 | | | | |
| 成績評価方法 | 定期試験 | | | 計 | |
| | 100　点 | 点 | 点 | 点 | |

| 授業計画 | | 講師名 |
|---|---|---|
| 第1回 | 精神医学とは　正常と異常　Tx.P2-6 | 髙橋 |
| 第2回 | 精神障害者の処遇の歴史と法規 Tx.P6-10　254-259 | 髙橋 |
| 第3回 | 精神障害の診断と評価　成因と分類　病識と病感　Tx.P11-15 | 髙橋 |
| 第4回 | 意識とその障害　知能とその障害 Tx.P16-38 | 髙橋 |
| 第5回 | 性格とその障害　記憶とその障害 Tx.P16-38 | 髙橋 |
| 第6回 | 感情とその障害　欲動、意志とその障害 Tx.P16-38 | 髙橋 |
| 第7回 | 自我意識とその障害　知覚とその障害 Tx.P16-38 | 髙橋 |
| 第8回 | 思考とその障害 Tx.P16-38 | 髙橋 |
| 第9回 | 思考とその障害 Tx.P16-38 | 髙橋 |
| 第10回 | ①病識とその障害　②主な精神状態像 | 髙橋 |
| 第11回 | 精神障害分野における検査 Tx.P53-67 | 髙橋 |
| 第12回 | 精神状態像　神経心理学的症状　Tx.P38-45 | 髙橋 |
| 第13回 | 精神障害分野における検査 Tx.P53-67 | 髙橋 |
| 第14回 | 前期　復習 | 髙橋 |
| 第15回 | 前期まとめ | 髙橋 |
| 備考 | 再試験の場合は、後期末再試験期間に前後期全範囲にて実施する　。 | |

| 科目名 | 精神医学 | 対象学科 | | 作業療法学科 | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | 開講学年 | | 2 学年 | |
| 指定規則科目区分 | 専門基礎分野 | 講義形態 | 講義 | 単位 | 4 単位 |
| | 疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進 | コマ数 | 30 コマ | 時間数 | 60 時間 |
| 担当教員（◎印は科目責任者） | ◎　髙橋　知之 | | | | |
| 授業概要 | 作業療法士に必要な精神医学を学ぶ | | | | |
| 到達目標 | 作業療法を実施するために必要な<br>①精神医学の総論について説明できる<br>②精神症候学について説明できる<br>③各精神疾患について説明できる | | | | |
| 教科書 | 精神医学第 4 版【医学書院】 | | | | |
| 参考書 | 精神疾患の理解と精神科作業療法【中央法規】現代臨床精神医学【金原出版】 | | | | |
| 成績評価方法 | 定期試験 | | | 計 | |
| | 200　点 | 点 | 点 | 200 点 | |
| 予習･復習のﾎﾟｲﾝﾄ | シラバスに従い、教科書の該当箇所を熟読し講義に臨むこと。<br>講義内容に従い、過去の国家試験問題の該当箇所を学習すること。 | | | | |

| 授業計画 | | | | 講師名 |
|---|---|---|---|---|
| 第 16 回 | 統合失調症 | 127～148 | | 高橋 |
| 第 17 回 | 統合失調症 | 127～148 | | 高橋 |
| 第 18 回 | 統合失調症 | 127～148 | | 高橋 |
| 第 19 回 | 気分障害 | 149～163 | | 高橋 |
| 第 20 回 | 気分障害 | 149～163 | | 高橋 |
| 第 21 回 | 神経症性障害　不安神経症　パニック障害<br>広場恐怖　強迫神経症　解離・身体表現性障害 | 164～175 | | 高橋 |
| 第 22 回 | 人格障害 | 181～187 | | 高橋 |
| 第 23 回 | 摂食障害 | 176～177 | | 高橋 |
| 第 24 回 | 精神作用物質　依存症 | 100～114 | | 高橋 |
| 第 25 回 | てんかん | 115～125 | | 高橋 |
| 第 26 回 | 心理的発達の障害 | 115～125 | | 高橋 |
| 第 27 回 | 認知症（脳器質性精神障害） | 68～81 | | 髙橋 |
| 第 28 回 | 症状性精神障害 | 94～99 | | 髙橋 |
| 第 29.30 回 | 後期まとめ | | | 高橋 |

| 科目名 | リハビリテーション医学Ⅰ | 対象学科 | | 作業療法学科 | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | 開講学年 | | 2学年 | |
| 指定規則科目区分 | 専門基礎分野 | 講義形態 | 講義 | 単位 | 2単位 |
| | 疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進 | コマ数 | 15コマ | 時間数 | 30時間 |
| 担当教員<br>(◎印は科目責任者) | ◎　田中　博 | | | | |
| 授業概要 | リハビリテーションに関与する様々な疾患の特長<br>リハビリテーション訓練を紹介 | | | | |
| 到達目標 | 各疾患の特長をしっかり把握した上で、どのようなリハビリ訓練を行っているのかを理解する | | | | |
| 教科書 | リハビリテーション医学テキスト【南江堂】 | | | | |
| 参考書 | プリント配布 | | | | |

| 成績評価方法 | 定期試験 | | | 計 |
|---|---|---|---|---|
| | 100　点 | 点 | 点 | 100点 |

| 予習･復習のﾎﾟｲﾝﾄ | 教科書と配布プリントを使用して勉強すること |
|---|---|

| 授業計画 | | 講師名 |
|---|---|---|
| 第1回 | リウマチ性疾患とその辺縁疾患<br>関節リウマチおよび他の膠原病リハビリテーションについて説明 | 田中 |
| 第2回 | 小児疾患<br>小児のリハビリテーションについて説明 | 田中 |
| 第3回 | 切断<br>上肢および下肢の切断のリハビリについて説明 | 田中 |
| 第4回 | 骨・関節疾患<br>肩、膝、股の疾患に関するリハビリについて説明 | 田中 |
| 第5回 | 脊髄疾患<br>脊髄損傷、二分脊椎リハビリについて説明 | 田中 |
| 第6回 | 神経筋疾患<br>パーキンソン病、ALS等のリハビリについて説明 | 田中 |
| 第7回 | 脊椎疾患<br>頚椎・腰椎を中心としたリハビリについて説明 | 田中 |
| 第8回 | 高齢者<br>高齢者に対するリハビリについて説明 | 田中 |
| 第9回 | 内部疾患①<br>循環器・呼吸器・腎臓・肝臓・糖尿病・肥満高血圧等のﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝについて説明 | 田中 |
| 第10回 | 内部疾患②<br>循環器・呼吸器・腎臓・肝臓・糖尿病・肥満高血圧等のﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝについて説明 | 田中 |
| 第11回 | 末梢循環障害<br>末梢循環障害のリハビリについて説明 | 田中 |
| 第12回 | 脳疾患<br>脳梗塞・脳出血などのリハビリについて説明 | 田中 |
| 第13回 | 末梢神経障害<br>末梢神経障害に対するリハビリについて説明 | 田中 |
| 第14回 | その他の疾患<br>熱病やがんに対するリハビリについて説明 | 田中 |
| 第15回 | まとめ | 田中 |
| 備考 | | |

| 科目名 | リハビリテーション医学Ⅱ | 対象学科 | | 作業療法学科 | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | 開講学年 | | 2 学年 | |
| 指定規則科目区分 | 専門基礎分野 | 講義形態 | 講義 | 単位 | 2 単位 |
| | 疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進 | コマ数 | 15 コマ | 時間数 | 30 時間 |
| 担当教員<br>(◎印は科目責任者) | ◎　星川嘉一、兼坂茂、辻正富、加藤裕久、佐野和美、住吉克彦、小泉由香里、板橋由加里 | | | | |
| 授業概要 | 本講義では、薬剤の体内動態、頻用薬剤の薬理作用、副作用、器官毒性とその発現メカニズム、人体と栄養素の相互作用について栄養学の基礎、救急医療・画像診断についての基礎と概念、予防医学についての理学療法士分野における概念を理解することを目的とする。 | | | | |
| 到達目標 | 理学療法を実施する際に必要な薬学、栄養学、画像診断学、救命・予防医学の知識を習得する。 | | | | |
| 教科書 | リハベーシック安全管理学・救急医療学【医歯薬出版】<br>リハビリテーション医療に活かす画像のみかた【南江堂】<br>まるごとわかる！生活習慣病【南山堂】 | | | | |
| 参考書 | プリント配布 | | | | |
| 成績評価方法 | 定期試験 | | | 計 | |
| | 100　点 | 点 | 点 | 100 点 | |
| 予習･復習のﾎﾟｲﾝﾄ | 講義に集中することが肝要である。 | | | | |

| 授業計画 | | 講師名 |
|---|---|---|
| 第 1 回 | リハビリテーションにおける薬学①<br>薬剤の体内動態および薬理作用 | 佐野 |
| 第 2 回 | リハビリテーションにおける薬学②<br>薬剤の副作用および禁忌行為 | 加藤 |
| 第 3 回 | リハビリテーションにおける栄養学①<br>栄養素の生理や代謝の仕組み | 住吉 |
| 第 4 回 | リハビリテーションにおける栄養学②<br>栄養素の消化吸収、エネルギー利用や生態の構成材料利用 | 住吉 |
| 第 5 回 | リハビリテーションにおける画像診断学①<br>CT・MRI の違いについて | 星川 |
| 第 6 回 | リハビリテーションにおける画像診断学②<br>中枢疾患(脳実質、脳血管)の見方 | 星川 |
| 第 7 回 | リハビリテーションにおける画像診断学③<br>整形疾患の見方 | 星川 |
| 第 8 回 | リハビリテーションにおける救命医療①<br>救命医療と救命医学について | 兼坂 |
| 第 9 回 | リハビリテーションにおける救命医療②<br>AED を含めた一般市民が行える心肺蘇生の実践 | 小泉<br>板橋 |
| 第 10 回 | リハビリテーションにおける救命医療③<br>ICU における医療 | 兼坂 |
| 第 11 回 | リハビリテーションにおける救命医療④<br>呼吸管理について | 兼坂 |
| 第 12 回 | リハビリテーションにおける予防医療①<br>予防医学の歴史と基礎 | 辻 |
| 第 13 回 | リハビリテーションにおける予防医療②<br>健康管理と身体トレーニング | 辻 |
| 第 14 回 | リハビリテーションにおける予防医療③<br>疾患別予防医学の基礎知識 | 辻 |
| 第 15 回 | まとめ | |
| 備考 | | |

| 科目名 | リハビリテーション概論 | 対象学科 | | 作業療法学科 | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | 開講学年 | | 1学年 | |
| 指定規則科目区分 | 専門基礎分野 | 講義形態 | 講義 | 単位 | 1単位 |
| | 保健医療福祉とリハビリテーションの理念 | コマ数 | 15コマ | 時間数 | 30時間 |
| 担当教員<br>(◎印は科目責任者) | ◎　　神保　匡良 | | | | |
| 授業概要 | リハビリテーションの概要を理解する | | | | |
| 到達目標 | 【知識・技術】<br>リハビリテーションに最低限必要な知識や概念を理解することができる<br>（ICF/ICIDH,生活/医学モデル,医療保健システム,他職種の理解,リハ領域の理解）<br>【思考力・判断力・表現力】<br>・医学モデルと生活モデルのリハビリを区別して説明することができる<br>・リハビリとは何かを理解しその中における**作業療法の役割を説明することができる**<br>【学びに向かう力】<br>・社会システムにおけるリハビリの価値を理解し学習意欲を高めることができる | | | | |
| 教科書 | 入門リハビリテーション概論第7版，増補　①<br>標準作業療法学　作業療法概論　第3版　② | | | | |
| 参考書 | 随時紹介 | | | | |
| 成績評価方法 | 定期試験 | | | 計 | |
| | 100　点 | 点 | 点 | 点 | |

| 授業計画 | | 講師名 |
|---|---|---|
| 第1回 | リハビリテーションの定義や目的を説明できる | 山根 4/12 |
| 第2回 | リハビリテーションの職種について説明できる①<br>（理学療法士・言語聴覚士・社会福祉士・精神保健福祉士・リハ医師・ケアマネの役割を説明できる）チームアプローチについて説明できる | 山根 4/19 |
| 第3回 | リハビリテーションの職種について説明できる② | 山根 4/26 |
| 第4回 | リハビリテーションの職種について説明できる③ | 山根 5/10 |
| 第5回 | 医療保険システム①<br>地域包括ケアシステムの理解 | 村仲 5/24 |
| 第6回 | 医療保険システム②<br>地域包括ケアシステムの理解 | 村仲 5/24 |
| 第7回 | リハビリテーションの分野・領域について説明できる①<br>（身障・発達・精神・高齢期・地域リハ・急性期・回復期・慢性期など） | 高橋 5/31 |
| 第8回 | リハビリテーションの分野・領域について説明できる②<br>（身障・発達・精神・高齢期・地域リハ・急性期・回復期・慢性期など） | 高橋 6/7 |
| 第9回 | 障害の分類　ICF/ICIDHを説明できる① | 村越 6/10 |
| 第10回 | 障害の分類　ICF/ICIDHを説明できる② | 村越 6/24 |
| 第11回 | 障害の分類　ICF/ICIDHを説明できる③ | 村越 7/1 |
| 第12回 | 医学モデルと生活モデルを理解する① | 匡良 6/17 |
| 第13回 | 医学モデルと生活モデルを理解する② | 匡良 6/24 |
| 第14回 | 医学モデルと生活モデルを理解する③ | 匡良 7/1 |
| 第15回 | まとめ | 7/12 |
| 備考 | | |

| 科目名 | 医療社会学 | 対象学科 | | 作業療法学科 | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | 対象学年 | | 2 学年 | |
| 指定規則科目区分 | 専門基礎分野 | 講義形態 | 講義 | 単位 | 1 単位 |
| | 保健医療福祉とリハビリテーションの理念 | コマ数 | 15 コマ | 時間数 | 30 時間 |
| 担当教員<br>(◎印は科目責任者) | ◎　山根　剛・増田　信代・高田　麗　・古谷　実・岩淵　裕 | | | | |
| 授業概要 | 医療社会学の基本的概念、即ち、健康や疾病をめぐる社会的要因と社会的施策について、また、それらに関係する自立支援と就労支援、医療制度と社会制度について学ぶ。<br>多職種の役割・機能の理解を深め、多職種連携について考えるとともに、自職種の役割を追及する。 | | | | |
| 到達目標 | 1　医療社会学の概念を理解できる<br>2　自立支援と就労支援、医療制度と社会保障制度について理解する<br>3　自己の専門職としての役割と責任を理解する<br>4　チーム内の専門性を理解する<br>5　多職種連携における協働を促進するコミュニケーションの重要性を理解する | | | | |
| 教科書 | | | | | |
| 参考書 | | | | | |
| 成績評価方法 | レポート | 出席点 | | 計 | |
| | 100　点 | 点 | 点 | 100 点 | |
| 予習･復習のﾎﾟｲﾝﾄ | 事例を通じて、他職種の役割について自ら考える<br>各職種の講義を確認することで、自分の考えを確認または修正する | | | | |

| 授業計画 | | 講師名 |
|---|---|---|
| 第 1 回 | 医療社会学の概念 | 高田 |
| 第 2 回 | 健康や疾病をめぐる社会的要因と社会的施策 | 高田 |
| 第 3 回 | 自立支援と就労支援 | 高田 |
| 第 4 回 | 医療制度と社会制度 | 高田 |
| 第 5 回 | マネジメント　チーム医療で大切なこと　事例課題提示 | 増田 |
| 第 6 回 | 多職種連携①　チーム医療における MSW、ケアマネージャーの役割 | 高田 |
| 第 7 回 | 多職種連携②-1　チーム医療における PT の役割 | 古谷 |
| 第 8 回 | 多職種連携②-2　チーム医療における PT の役割 | 古谷 |
| 第 9 回 | 多職種連携③-1　チーム医療における OT の役割 | 山根 |
| 第 10 回 | 多職種連携③-2　チーム医療における OT の役割 | 山根 |
| 第 11 回 | 多職種連携④-1　チーム医療における ST の役割 | 岩淵 |
| 第 12 回 | 多職種連携④-2　チーム医療における ST の役割 | 岩淵 |
| 第 13 回 | 多職種連携⑤-1　チーム医療における Ns の役割 | 増田 |
| 第 14 回 | 多職種連携⑤-3　チーム医療における Ns の役割 | 増田 |
| 第 15 回 | まとめ | |
| 備考 | | |

| 科目名 | 地域リハビリテーションⅡ | 対象学科 | | 作業療法学科 | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | 開講学年 | | 4学年 | |
| 指定規則科目区分 | 専門分野 | 講義形態 | 講義 | 単位 | 1単位 |
| | 地域作業療法学 | コマ数 | 15コマ | 時間数 | 30時間 |
| 担当教員<br>(◎印は科目責任者) | ◎　村越由季子 | | | | |
| 授業概要 | 植物生理学の基礎を踏まえ、臨床医学（内科学）との連続性を理解 | | | | |
| 到達目標 | ・泌尿器、内分泌、代謝の復習と理解<br>・上記3領域の内科学の理解<br>・病理学の理解 | | | | |
| 教科書 | Question Bank 内科領域<br>病気がみえる vol３，６，８ | | | | |
| 参考書 | | | | | |

| 成績評価方法 | 定期試験 | | | 計 |
|---|---|---|---|---|
| | 100　点 | 点 | 点 | 点 |

| 授業計画 | | 講師名 |
|---|---|---|
| 第1回 | 腎臓の解剖　泌尿器の構造 | 村越 |
| 第2回 | 泌尿器の生理　腎不全 | 村越 |
| 第3回 | 基礎代謝、エネルギー代謝、体温と調節 | 村越 |
| 第4回 | 復習 | 村越 |
| 第5回 | 内分泌総論 | 村越 |
| 第6回 | 内分泌疾患 | 村越 |
| 第7回 | 糖尿病、糖代謝　痛風 | 村越 |
| 第8回 | 復習 | 村越 |
| 第9回 | 免疫機構、免疫組織と免疫グロブリン | 村越 |
| 第10回 | 免疫機構、免疫組織と免疫グロブリン | 村越 |
| 第11回 | 浮腫、萎縮、褥瘡、炎症 | 村越 |
| 第12回 | 復習 | 村越 |
| 第13回 | 感染症 | 村越 |
| 第14回 | 発生・細胞　腫瘍 | 村越 |
| 第15回 | まとめ | 村越 |
| 備考 | | |

| 科目名 | 作業療法概論Ⅱ | 対象学科 | | 作業療法学科 | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | 開講学年 | | 4 学年 | |
| 指定規則科目区分 | 専門分野 | 講義形態 | 講義 | 単位 | 1 単位 |
| | 基礎作業療法学 | コマ数 | 15 コマ | 時間数 | 30 時間 |
| 担当教員<br>(◎印は科目責任者) | ◎　山根　剛　　村越由季子 | | | | |
| 授業概要 | 植物生理学の基礎を踏まえ、臨床医学（内科学）との連続性を理解 | | | | |
| 到達目標 | ・循環器・呼吸器・消化器の復習と理解<br>・上記３領域の内科学の理解 | | | | |
| 教科書 | ①　配布資料：PTOT 国家試験必修ポイント　基礎医学/臨床医学　【医歯薬出版】<br>②　病気が見える vol１，２，４【メディックメディア】 | | | | |
| 参考書 | | | | | |
| 成績評価方法 | 期末試験 | | | 計 | |
| | １００　点 | 点 | 点 | 100 点 | |
| 予習･復習のﾎﾟｲﾝﾄ | 【予習】該当領域の教科書「病気が見える」を読んでくる<br>【復習】要点の理解，ポイントの整理， | | | | |

| 授業計画 | | 講師名 |
|---|---|---|
| 第 1 回 | 動脈、静脈、リンパ循環 | 村越 |
| 第 2 回 | 心臓の構造 | 村越 |
| 第 3 回 | 心臓：刺激伝導系、血圧調整 | 村越 |
| 第 4 回 | 心疾患 | 村越 |
| 第 5 回 | 血圧 | 村越 |
| 第 6 回 | 血液 | 村越 |
| 第 7 回 | 呼吸器の構造 | 山根 |
| 第 8 回 | 呼吸中枢、酸塩基平衡 | 山根 |
| 第 9 回 | 呼吸器内科：閉塞性・拘束性肺疾患他 | 山根 |
| 第 10 回 | 呼吸器内科：閉塞性・拘束性肺疾患他 | 山根 |
| 第 11 回 | 口腔～大腸解剖、消化酵素 | 山根 |
| 第 12 回 | 口腔～大腸解剖、消化酵素 | 山根 |
| 第 13 回 | 胃潰瘍 他 | 山根 |
| 第 14 回 | 循環、呼吸、消化器復習　課題 | 山根 |
| 第 15 回 | まとめ | |
| 備考 | | |

| 科目名 | 基礎作業学演習Ⅱ | 対象学科 | | 作業療法学科 | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | 開講学年 | | 4学年 | |
| 指定規則科目区分 | 専門分野 | 講義形態 | 講義 | 単位 | 1単位 |
| | 基礎作業療法学 | コマ数 | 15コマ | 時間数 | 30時間 |
| 担当教員<br>(◎印は科目責任者) | ◎　山根　剛 | | | | |
| 授業概要 | ・作業療法業務に関わる、記録、リスク管理などについて学習する<br>・作業療法の評価、検査について学習する<br>・治療技術としての生活を含めた作業活動の理論、効果を学習する | | | | |
| 到達目標 | ・作業療法業務に関わる、記録、リスク管理などを説明できる。<br>・作業療法の評価、検査について、目的・方法・道具・結果の解釈を説明できる<br>・基礎作業学における基本的な治療理論について説明できる。 | | | | |
| 教科書 | クエスチョンバンク　専門・共通 | | | | |
| 参考書 | 書籍名【出版社】PTOT国家試験必修ポイント:臨床医学　基礎OT | | | | |
| 成績評価方法 | 定期試験 | | | 計 | |
| | 100　点 | 点 | 点 | 100点 | |
| 予習･復習のﾎﾟｲﾝﾄ | シラバスにある関連ページを予習して講義に臨むこと。 | | | | |

| 授業計画 | | 講師名 |
|---|---|---|
| 第1回 | 作業活動　道具陶芸　作業活動の適用と実施　運動学習　P1-24 | 山根 |
| 第2回 | 作業活動　道具陶芸　作業活動の適用と実施　運動学習　P1-24 | 山根 |
| 第3回 | ROM　QB専門P127-134 | 山根 |
| 第4回 | ROM　QB専門P127-134 | 山根 |
| 第5回 | MMT　QB専門P135-155 | 山根 |
| 第6回 | MMT　QB専門P135-155 | 山根 |
| 第7回 | 感覚検査・反射・Br-stage　QB専門P156-161、162-165、165-173 | 山根 |
| 第8回 | 感覚検査・反射・Br-stage　QB専門P156-161、162-165、165-173 | 山根 |
| 第9回 | ADL・QOL評価・ICF　QB専門P173-190　191-195 | 山根 |
| 第10回 | ADL・QOL評価・ICF　QB専門P173-190　191-195 | 山根 |
| 第11回 | 面接技術　QB専門P119-126　共通P893-898 | 山根 |
| 第12回 | 評価法総論　QB専門P196-204 | 山根 |
| 第13回 | 摂食・嚥下機能評価　P205-221 | 山根 |
| 第14回 | 摂食・嚥下機能評価　P205-221 | 山根 |
| 第15回 | まとめ | 山根 |
| 備考 | | |

| 科目名 | 作業科学 | 対象学科 | | 作業療法学科 | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | 開講学年 | | 2 学年 | |
| 指定規則科目区分 | 専門分野 | 講義形態 | 講義 | 単位 | 1 単位 |
| | 基礎作業療法学 | コマ数 | 15 コマ | 時間数 | 30 時間 |
| 担当教員<br>(◎印は科目責任者) | ◎　村仲隼一郎 | | | | |
| 授業概要 | 理論の枠組みを通して作業療法の思考過程を学習する | | | | |
| 到達目標 | 臨床的推論（クリニカルリーズニング）<br>ICF の枠組みを通して作業療法の思考過程を理解できる<br>人間作業モデル（MOHO）を通して作業療法の思考過程を理解できる | | | | |
| 教科書 | ①　作業療法理論の教科書、作業で語る事例報告、人間作業モデル（第 5 版)、 | | | | |
| 参考書 | 介護保険サービスとリハビリテーション、ICF を取り入れた介護過程の展開 | | | | |
| 成績評価方法 | レポート | | | 計 | |
| | 100　点 | 点 | 点 | 100 点 | |
| 予習･復習のﾎﾟｲﾝﾄ | 【予習】該当領域の教科書を読んでくる。特に事例<br>【復習】要点の理解，ポイントの整理， | | | | |

| 授業計画 | | 講師名 |
|---|---|---|
| 第 1 回 | 作業療法リーズニング（科学的、物語的、実際的、倫理的、相互交流） | 村仲 |
| 第 2 回 | 作業療法リーズニング（事例演習） | |
| 第 3 回 | 作業療法リーズニング（事例演習） | |
| 第 4 回 | 臨床の情報を如何に整理するか（ボトムアップとトップダウン） | |
| 第 5 回※ | 臨床の情報を如何に整理するか（事例演習） | |
| 第 6 回 | ICF を用いたリーズニング（目標指向アプローチ） | |
| 第 7 回 | ICF を用いた事例検討（身障） | |
| 第 8 回※ | ICF を用いた事例検討（身障） | |
| 第 9 回 | MOHO を用いたリーズニング | |
| 第 10 回 | MOHO を用いた事例検討 | |
| 第 11 回 | MOHO を用いた事例検討 | |
| 第 12 回 | MOHO を用いた事例検討 | |
| 第 13 回 | MOHO を用いた事例検討 | |
| 第 14 回 | MOHO を用いた事例検討 | |
| 第 15 回 | MOHO を用いた事例検討 | |
| 備考 | | |

| 科目名 | 職業管理学 | 対象学科 | | 作業療法学科 | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | 開講学年 | | 2 学年 | |
| 指定規則科目区分 | 専門分野 | 講義形態 | 講義 | 単位 | 1 単位 |
| | 作業療法管理学 | コマ数 | 15 コマ | 時間数 | 30 時間 |
| 担当教員<br>(◎印は科目責任者) | ◎　村仲隼一郎　神保匡良 | | | | |
| 授業概要 | 作業療法士に必要な基本的なマネージメントについて学ぶ | | | | |
| 到達目標 | ・作業に焦点を当てたマネージメントを理解する<br>・セルフマネージメント，チームマネージメントを踏まえ，新人としての行動規範を理解する<br>・社会保障制度を踏まえ地域包括ケアシステムにおけるマネージメントを理解する | | | | |
| 教科書 | 作業で結ぶマネジメント　医学書院 | | | | |
| 参考資料 | | | | | |

| 成績評価方法 | レポート | 定期試験 | | 計 |
|---|---|---|---|---|
| | 30　点 | 70　点 | 点 | 100 点 |
| 予習･復習のﾎﾟｲﾝﾄ | 倫理綱領に関しては非常に重要であるため、全文を暗記・復唱できるようにする. | | | |

| 授業計画 | | 講師名 |
|---|---|---|
| 第 1 回 | 作業に焦点を当てたマネージメント　講義 | 神保(洋) |
| 第 2 回 | 作業に焦点を当てたマネージメント　演習 | 神保(洋) |
| 第 3 回 | セルフマネージメント　講義 | 神保(匡) |
| 第 4 回 | セルフマネージメント　演習 | 神保(匡) |
| 第 5 回 | セルフマネージメント　演習 | 神保(匡) |
| 第 6 回 | チームマネージメント　講義 | 村仲 |
| 第 7 回 | チームマネージメント　演習 | 村仲 |
| 第 8 回 | チームマネージメント　演習 | 村仲 |
| 第 9 回 | 管理運営　講義 | 神保(洋) |
| 第 10 回 | 管理運営　講義 | 神保(洋) |
| 第 11 回 | 管理運営　演習 | 神保(洋) |
| 第 12 回 | 社会保障制度 | 村仲 |
| 第 13 回 | 地域包括ケアシステムにおけるマネージメント　講義 | 村仲 |
| 第 14 回 | 地域包括ケアシステムにおけるマネージメント　演習 | 村仲 |
| 第 15 回 | まとめ | 神保(洋) |
| 備考 | | |

| 科目名 | 職業倫理学 | 対象学科 | | 作業療法学科 | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | 開講学年 | | 2 学年 | |
| 指定規則科目区分 | 専門分野 | 講義形態 | 講義 | 単位 | 1 単位 |
| | 作業療法管理学 | コマ数 | 15 コマ | 時間数 | 30 時間 |
| 担当教員<br>（◎印は科目責任者） | ◎　村仲　隼一郎 | | | | |
| 授業概要 | 作業療法士に必要な基本的な職業倫理を学ぶ | | | | |
| 到達目標 | ・臨床現場だけでなく、身近に生じる倫理的問題を深く洞察できる力を獲得する.<br>・倫理問題に対し様々な立場にたったものごとの解釈、予測、選択する力を獲得する. | | | | |
| 教科書 | ・吉川ひろみ（著）: 保健・医療職のための生命倫理ワークブック. 三輪書店 | | | | |
| 参考資料 | ・日本作業療法士協会　倫理綱領　作業療法士の職業倫理指針<br>参照ＵＲＬ：https://www.jaot.or.jp/files/page/kyoukainituite/rinrisisin.pdf<br>・日本作業療法士協会　作業療法士の倫理に係る事例集<br>参照ＵＲＬ：https://www.jaot.or.jp/files/page/kyoukainituite/rinrijirei.pdf | | | | |

| 成績評価方法 | レポート | 定期試験 | | 計 |
|---|---|---|---|---|
| | 40　点 | 60　点 | 点 | 100 点 |
| 予習･復習のﾎﾟｲﾝﾄ | 倫理綱領に関しては非常に重要であるため、全文を暗記・復唱できるようにする. | | | |

| 授業計画 | | 講師名 |
|---|---|---|
| 第 1 回 | 職業倫理学に関するオリエンテーション　倫理綱領の概要説明 | 村仲 |
| 第 2 回 | 一般社団法人日本作業療法士協会・倫理綱領の内容理解（１） | 村仲 |
| 第 3 回 | 一般社団法人日本作業療法士協会・倫理綱領の内容理解（２） | 村仲 |
| 第 4 回 | グループワーク・ディスカッション＆まとめ | 村仲 |
| 第 5 回 | グループワーク・プレゼンテーション | 村仲 |
| 第 6 回 | グループワーク・プレゼンテーション　レポート 1 提出 | 村仲 |
| 第 7 回 | 一般社団法人日本作業療法士協会・作業療法士の職業倫理指針の内容理解（１） | 村仲 |
| 第 8 回 | 一般社団法人日本作業療法士協会・作業療法士の職業倫理指針の内容理解（２） | 村仲 |
| 第 9 回 | 一般社団法人日本作業療法士協会・作業療法士の職業倫理指針の内容理解（３） | 村仲 |
| 第 10 回 | グループワーク・ディスカッション＆まとめ | 村仲 |
| 第 11 回 | グループワーク・プレゼンテーション | 村仲 |
| 第 12 回 | グループワーク・プレゼンテーション　レポート 2 提出 | 村仲 |
| 第 13 回 | 一般社団法人日本作業療法士協会・作業療法士の倫理に係る事例集の内容理解（１） | 村仲 |
| 第 14 回 | 一般社団法人日本作業療法士協会・作業療法士の倫理に係る事例集の内容理解（２） | 村仲 |
| 第 15 回 | まとめ | 村仲 |
| 備考 | | |

| 科目名 | 身体障害評価法講義 | 対象学科 | | 作業療法学科 | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | 開講学年 | | 2学年 | |
| 指定規則科目区分 | 専門分野 | 講義形態 | 講義 | 単位 | 1単位 |
| | 作業療法評価学 | コマ数 | 15コマ | 時間数 | 30時間 |
| 担当教員<br>(◎印は科目責任者) | ◎　村仲　隼一朗　山根　剛　神保　匡良　村越　由季子 | | | | |
| 授業概要 | 身体障害領域に対する評価法の原理・方法を学習する | | | | |
| 到達目標 | 1.身体障害の作業療法の評価について説明できる　2.中枢神経障害の評価を説明・実施できる　3.脳神経検査を説明・実施できる | | | | |
| 教科書 | ゴールドマスターテキスト　作業療法評価学（標準作業療法学）【メディカルビュー】 | | | | |
| 参考書 | 身体障害作業療法学（標準作業療法）【医学書院】<br>病気が見える7　脳・神経【メディックメディア】<br>ベッドサイドの神経の見方【南山堂】 | | | | |
| 成績評価方法 | 定期試験 | | | 計 | |
| | 100　点 | 点 | 点 | 点 | |

| 授業計画 | | 講師名 |
|---|---|---|
| 第1回 | 【評価総論】評価法講義で学ぶことを説明できる。評価の目的と意義を説明できる | 村越 |
| 第2回 | 【評価総論】評価の手順、手段、留意点、評価項目を説明できる | 村越 |
| 第3回 | 【評価総論】評価のまとめ、治療計画立案を説明・実施できる。評価を記録でき、報告できる／効果判定について説明できる | 村越 |
| 第4回 | 【反射】反射検査とその異常について説明できる、反射検査を実施できる | 山根 |
| 第5回 | 【筋緊張】筋toneの異常を説明できる。筋toneの評価を説明できる | 山根 |
| 第6回 | 【筋緊張】筋toneの異常を説明できる。筋toneの評価を説明できる | 山根 |
| 第7回 | 画像診断学 | 山根 |
| 第8回 | 画像診断学 | 山根 |
| 第9回 | 嚥下機能評価（村仲） | 村仲 |
| 第10回 | 嚥下機能評価（村仲） | 村仲 |
| 第11回 | 【失調の見方】失調症・協調性障害について説明できる<br>失調症・協調性障害の検査が実施できる | 村越 |
| 第12回 | 【失調の見方】失調症・協調性障害について説明できる<br>失調症・協調性障害の検査が実施できる | 村越 |
| 第13回 | 【中枢神経障害の見方】中枢神経障害の運動麻痺について説明できる | 神保匡 |
| 第14回 | 【中枢神経障害の見方】中枢神経障害の運動麻痺の評価を説明できる | 神保匡 |
| 第15回 | まとめ | |
| 備考 | | |

| 科目名 | 身体障害評価法演習 | 対象学科 | | 作業療法学科 | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | 開講学年 | | 2学年 | |
| 指定規則科目区分 | 専門基礎分野 | 講義形態 | 講義 | 単位 | 2単位 |
| | 作業療法評価学 | コマ数 | 30コマ | 時間数 | 60時間 |
| 担当教員<br>(◎印は科目責任者) | ◎　村仲　隼一郎　山根　剛　神保　匡良　村越由季子 | | | | |
| 授業概要 | 身体障害領域に対する作業療法評価法の原理・方法を学習する | | | | |
| 到達目標 | 身体障害分野の作業療法の各検査・測定を説明でき、実施できる。 | | | | |
| 教科書 | 作業療法評価学　第3版　【ゴールドマスターテキスト】<br>PTOTのための測定評価　1　ROM　【三輪書店】<br>PTOTのための測定評価　2　形態測定・感覚検査・反射検査【三輪書店】<br>PTOTのための測定評価　3　MMT（上肢)【三輪書店】<br>PTOTのための測定評価　4　MMT（下肢体幹)【三輪書店】<br>PTOTのための測定評価　7　片麻痺機能検査・協調性検査【三輪書店】 | | | | |
| 参考書 | プロメテウス解剖学アトラス　運動器系第3版　【医学書院】 | | | | |

| 成績評価方法 | 中間試験 | 定期試験 | | 計 |
|---|---|---|---|---|
| | 100　点 | 100　点 | 点 | 200点 |

| 授業計画 | | 講師名 |
|---|---|---|
| 第1回 | 【バイタル】バイタルサイン・意識障害・リスク管理について説明できる | 村仲<br>4/10③ |
| 第2回 | 【バイタルサイン】バイタルサインの検査測定を実施できる（脈拍・血圧・呼吸数） | 村仲<br>4/10④ |
| 第3回 | 【身体測定】身体測定の概論と主要な検査が実施できる | 村越<br>4/17③ |
| 第4回 | 【事例理解】事例を理解する | 村越<br>4/17④ |
| 第5回 | 【関節可動域測定法】関節可動域測定法を説明できる。関節可動域測定法を実施できる<br>○肘関節：屈曲・伸展、○手関節：背屈・掌屈・尺屈・橈屈 | 村越<br>4/24③ |
| 第6回 | 【関節可動域測定法】関節可動域測定法を実施できる<br>○肩甲帯：屈曲・伸展・挙上・下制　○肩関節：屈曲・伸展・外転・内転・外旋・内旋・水平屈曲・水平伸展 | 村越<br>4/24④ |
| 第7回 | 【関節可動域測定法】関節可動域測定法を実施できる<br>○前腕：回内・回外　○母指：橈側外転・掌側外転・MP屈曲・MP伸展・IP屈曲・IP伸展・<br>○手指：MCP屈曲・MCP伸展・PIP屈曲・DIP屈曲・外転・内転 | 村越<br>5/1③ |
| 第8回 | 【関節可動域測定法】関節可動域測定法を実施できる<br>○股関節：屈曲・SLRでの屈曲・伸展・外転・内転・外旋・内旋 | 村越<br>5/1④ |
| 第9回 | 【関節可動域測定法】関節可動域測定法を実施できる<br>○膝関節：屈曲　○足関節：背屈・底屈　○足部：外がえし・内がえし・内転・外転 | 村越5/8<br>③ |
| 第10回 | 【関節可動域測定法】関節可動域測定法を実施できる<br>○頚部：屈曲・伸展・側屈・回旋　○体幹：屈曲・伸展・側屈・回旋 | 村越<br>5/8④ |
| 第11回 | 【感覚検査】感覚検査について説明できる | 山根<br>5/22① |
| 第12回 | 【感覚検査】感覚検査（表在覚）について説明でき、実施できる | 山根 |

| | | |
|---|---|---|
| | | 5/29③ |
| 第 13 回 | 【感覚検査】感覚検査（深部覚）について説明でき、実施できる | 山根<br>5/29① |
| 第 14 回 | 【感覚検査】まとめ | 山根<br>6/12③ |
| 第 15 回 | 筆記試験 | 7/3 |
| 第 16 回 | 【筋力測定】筋力測定について説明できる | 村仲<br>5/30① |
| 第 17 回 | 【筋力測定】MMT（上肢）を実施できる. | 村仲<br>5/30③ |
| 第 18 回 | 【筋力測定】MMT（上肢）を実施できる | 村仲<br>6/6① |
| 第 19 回 | 【筋力測定】MMT（下肢）を実施できる | 村仲<br>6/6③ |
| 第 20 回 | 【筋力測定】MMT（下肢）を実施できる | 村仲<br>6/13① |
| 第 21 回 | 【筋力測定】MMT（体幹）を実施できる | 村仲<br>6/13③ |
| 第 22 回 | 【中枢神経障害の運動機能評価】Br-stage 上田式を理解・実施できる | 神保匡 |
| 第 23 回 | 【中枢神経障害の運動機能評価】Br-stage 上田式を実施できる | 神保匡 |
| 第 24 回 | 【中枢神経障害の運動機能評価】Fugl-Meyer Assessment が理解・実施できる | 神保匡 |
| 第 25 回 | 【中枢神経障害の運動機能評価】ＳＴＥＦが理解・実施できる | 神保匡 |
| 第 26 回 | 【上肢機能検査】Motor Activity Log が理解・実施できる | 神保匡 |
| 第 27 回 | 【上肢機能検査】麻痺側上肢機能評価：WMFT が理解・実施できる | 神保匡 |
| 第 28 回 | 【立ち直り・バランス検査】立ち直り・バランス検査について説明でき、実施できる | 神保匡 |
| 第 29 回 | 【立ち直り・バランス検査】立ち直り・バランス検査について説明でき、実施できる | 神保匡 |
| 第 30 回 | 筆記試験 | 神保匡 |
| 備考 | 前期の筆記試験範囲は第 1～14 回までの内容になります<br>後期の筆記試験範囲は第 16～29 回までの内容になります | |

| 短期記憶・長期記憶　科目名 | 精神障害評価法講義 | 対象学科 | | 作業療法学科 | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | 開講学年 | | 2学年 | |
| 指定規則科目区分 | 専門分野 | 講義形態 | 講義 | 単位 | 1単位 |
| | | コマ数 | 15コマ | 時間数 | 30時間 |
| 担当教員<br>(◎印は科目責任者) | 髙橋知之 | | | | |
| 授業概要 | 精神障害分野の評価、精神障害分野のＯＴの成り立ちを学習する | | | | |
| 到達目標 | 精神障害分野の作業療法における評価を説明することができる<br>精神障害分野の作業療法の成り立ちを説明できる | | | | |
| 教科書 | A 精神障害と作業療法【三輪書店】 | | | | |
| 参考書 | 作業療法評価学【医学書院】 | | | | |

| 成績評価方法 | 定期試験 | | | 計 |
|---|---|---|---|---|
| | 点 | 点 | 点 | 点 |

| 授業計画 | | 講師名 |
|---|---|---|
| 第1回 | 精神の病と精神領域におけるリハの考え方を説明できる①ATx.1-34 | 髙橋 |
| 第2回 | 精神の病と精神領域におけるリハの考え方を説明できる②。ATx.1-34 | 髙橋 |
| 第3回 | 精神科ＯＴの成り立ちと課題について説明できる。ATx.35-53 | 髙橋 |
| 第4回 | 精神科ＯＴの実践される場について説明できる。ATx.216-261 | 髙橋 |
| 第5回 | 精神障害分野ＯＴの手順について説明できる ATx.156-165 | 髙橋 |
| 第6回 | 信頼関係の重要性とその形成について説明できる。 | 髙橋 |
| 第7回 | 精神科作業療法における観察について説明できる。 | 髙橋 |
| 第8回 | 面接の構造、構成的面接と非構成的面接について説明できる。 | 髙橋 |
| 第9回 | プロセスレコード作成法とその目的について説明できる。 | 髙橋 |
| 第10回 | 精神障害ＯＴにおける評価項目と情報収集について説明できる。 | 髙橋 |
| 第11回 | 作業を用いた面接について説明できる。 | 髙橋 |
| 第12回 | 精神科看護の視点について説明できる。　MSE | 髙橋 |
| 第13回 | 集団、場、場所と集団参加技能について説明できる。 | 髙橋 |
| 第14回 | 事後評価、記録と報告について説明できる。ATx.P209-210<br>説明と同意・チーム医療について説明できる。 | 髙橋 |
| 第15回 | まとめ | 髙橋 |
| 備考 | | |

| 科目名 | 精神障害評価法演習 | 対象学科 | | 作業療法学科 | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | 開講学年 | | 2学年 | |
| 指定規則科目区分 | 専門分野 | 講義形態 | 演習 | 単位 | 2単位 |
| | 作業療法評価学 | コマ数 | 15コマ | 時間数 | 30時間 |
| 担当教員<br>(◎印は科目責任者) | ◎　髙橋　知之 | | | | |
| 授業概要 | 精神障害評価法の講義内容に即して演習を行う | | | | |
| 到達目標 | ・自己理解することができる。　・対象者を観察し、それを記録することができる。<br>・対象者と面接し、それを記録することができる。　・得られた情報を整理することができる。　・構成的な検査を実施し、解釈することができる。　・チーム内で良好なコミュニケーションが発揮できる。　・評価計画をプランニングできる。 | | | | |
| 教科書 | 精神障害と作業療法【三輪書店】 | | | | |
| 参考書 | 作業療法評価学【医学書院】 | | | | |

| 成績評価方法 | レポート | プレゼンテーション | | 計 |
|---|---|---|---|---|
| | 50　点 | 50　点 | 点 | 点 |

| 授業計画 | | 講師名 |
|---|---|---|
| 第1週 | コースオリエンテーション　自己理解の重要性を理解する | 髙橋 |
| 第2週 | エゴグラム　エニアグラムを体験し、自己理解を深める | 髙橋 |
| 第3週 | 思い込み、バイアスについて説明できる。 | 髙橋 |
| 第4週 | 価値観について説明できる。 | 髙橋 |
| 第5週 | 信頼関係を構築できる。　共感的態度を示すことができる。 | 髙橋 |
| 第6週 | 共感的理解を実施することができる。 | 髙橋 |
| 第7週 | 非関与観察と記録を実施することができる。 | 髙橋 |
| 第8週 | 関与観察を実施することができる。<br>プロセスレコードを作成することができる。 | 髙橋 |
| 第9週 | 情報を整理することができる。 | 髙橋 |
| 第10週 | 面接のオリエンテーションができる。<br>適切に質問することができる。 | 髙橋 |
| 第11週 | MMSE HDSRについて | 髙橋 |
| 第12週 | 構成的面接演習（導入面接） | 髙橋 |
| 第13週 | 非構成的面接演習 | 髙橋 |
| 第14週 | 回想法について | 髙橋 |
| 第15週 | 対象者を理解する為に必要な生活史 | 髙橋 |
| 備考 | | |

| 科目名 | 日常生活活動評価法演習 | 対象学科 | | 作業療法学科 | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | 開講学年 | | 2 学年 | |
| 指定規則科目区分 | 専門分野 | 講義形態 | 講義 | 単位 | 1 単位 |
| | 作業療法評価学 | コマ数 | 15 コマ | 時間数 | 30 時間 |
| 担当教員（◎印は科目責任者） | ◎　山根　剛 | | | | |
| 授業概要 | 日常生活活動の各評価法の概要や実施手順を学ぶ | | | | |
| 到達目標 | 各評価方法の特徴を知り，対象者に合わせた評価法の選択，解釈ができる. | | | | |
| 教科書 | 脳卒中の機能評価　SIAS と FIM　基礎編　COPM・AMPS スターティングガイド<br>人間作業モデル理論と応用　OSA-Ⅱ、VQ　各マニュアル | | | | |
| 参考書 | 配布プリント | | | | |
| 成績評価方法 | 定期試験 | レポート | | 計 | |
| | 100　点 | 点 | 点 | 100 点 | |
| 予習･復習のﾎﾟｲﾝﾄ | 予習：授業計画の部分の教科書を読む。学習課題とキーワード概要を確認しておく。<br>復習：教科書の演習問題を解く。 | | | | |

| 授業計画 | | 講師名 |
|---|---|---|
| 第 1 回 | オリエンテーション<br>FIM①概論、食事評価項目・評価基準を知る | 山根剛 4/11 |
| 第 2 回 | FIM②整容・清拭・更衣・評価基準を知る. | 山根剛 4/11 |
| 第 3 回 | FIM③排泄・移乗・移動評価項目・評価基準を知る. | 山根剛 4/18 |
| 第 4 回 | FIM④コミュニケーション・社会的認知評価項目・基準を知る. | 山根剛 4/18 |
| 第 5 回 | COPM①COPM の概要を知る. | 山根剛 4/25 |
| 第 6 回 | COPM②実施手順（第 1・2・3・4 段階）について理解する. | 山根剛 5/2 |
| 第 7 回 | AMPS①概念と実施手順を学ぶ | 山根剛 5/9 |
| 第 8 回 | AMPS②運動技能項目の評価基準を知る. | 山根剛 5/16 |
| 第 9 回 | AMPS②プロセス技能項目の評価基準を知る. | 山根剛 5/23 |
| 第 10 回 | 人間作業モデルの評価が理解・実施できる（MOHOST） | 山根剛 5/30 |
| 第 11 回 | 人間作業モデルの評価が理解・実施できる（MOHOST） | 山根剛 5/30 |
| 第 12 回 | 人間作業モデルの評価が理解・実施できる（VQ） | 山根剛 6/6 |
| 第 13 回 | 人間作業モデルの評価が理解・実施できる（OQ） | 山根剛 6/6 |
| 第 14 回 | QOL の評価（WHOQOL、SF36、Euro　QOL　など） | 山根剛 6/13 |
| 第 15 回 | 筆記試験４０点　　+　　動画試験６０点 | 山根剛 6/27 |
| 備考 | | |

| 科目名 | 身体障害治療学Ⅰ | 対象学科 | | 作業療法学科 | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | 開講学年 | | 2学年 | |
| 指定規則科目区分 | 専門分野 | 講義形態 | 講義 | 単位 | 1単位 |
| | 作業治療学 | コマ数 | 15コマ | 時間数 | 30時間 |
| 担当教員<br>(◎印は科目責任者) | ◎　山根　剛　林研二郎 | | | | |
| 授業概要 | ・身体障害分野の基本的な治療方法を学ぶ。<br>・身体障害分野の疾患別、障害別の治療を学ぶ。 | | | | |
| 到達目標 | ・基本的な治療を説明でき、実施できる<br>・障害像に合わせた治療介入を説明でき、実施できる | | | | |
| 教科書 | 標準作業療法学　専門分野　身体機能作業療法学【医学書院】<br>エガース・片麻痺の作業療法【協同医書】 | | | | |
| 参考書 | 標準作業療法学　専門分野　作業療法評価学　【医歯薬出版】 | | | | |
| 成績評価方法 | 定期試験 | | | 計 | |
| | 100　点 | 点 | 点 | 100点 | |
| 予習･復習のﾎﾟｲﾝﾄ | ・授業前に教科書の範囲を予習しておいてください.<br>・授業後に教科書の範囲を復習しておいてください. | | | | |

| 授業計画 | | 講師名 |
|---|---|---|
| 第1回 | 脳血管障害（片麻痺）について説明できる | 山根 |
| 第2回 | 脳血管障害（片麻痺）の障害像を説明できる | |
| 第3回 | 麻痺の回復に合わせた治療を説明できる | |
| 第4回 | 麻痺の回復に合わせた治療を説明できる | |
| 第5回 | 筋 tone の異常への治療介入を説明できる | |
| 第6回 | 骨折への作業療法の介入について説明できる | |
| 第7回 | 骨折への作業療法の介入について実施できる | |
| 第8回 | 関節可動域改善へのアプローチについて説明できる | 林 |
| 第9回 | 関節可動域改善へのアプローチについて実施できる | |
| 第10回 | 筋力増強法について説明できる | |
| 第11回 | 筋力増強法について実施できる | |
| 第12回 | 末梢神経損傷への作業療法介入について説明できる | 山根 |
| 第13回 | 末梢神経損傷への作業療法介入について説明できる | |
| 第14回 | 知覚再教育を説明できる | |
| 第15回 | テスト | |
| 備考 | 期末テスト（100点）で単位認定を行います。 | |

| 科目名 | 身体障害治療学Ⅱ | 対象学科 | | 作業療法学科 | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | 開講学年 | | 3 学年 | |
| 指定規則科目区分 | 専門分野 | 講義形態 | 講義 | 単位 | 1 単位 |
| | 作業治療学 | コマ数 | 15 コマ | 時間数 | 30 時間 |
| 担当教員（◎印は科目責任者） | ◎　山根　剛 | | | | |
| 授業概要 | 治療モデルを学習し、モデルを利用した対象者の評価・治療を学習する | | | | |
| 到達目標 | ・障害像に合わせた治療的介入を説明でき、実施できる<br>・治療モデルに沿って、対象者の評価、治療の流れを説明し、実施できる | | | | |
| 教科書 | 身体機能作業療法学【医学書院】<br>人間作業モデルその理論と応用【協同医書出版】 | | | | |
| 参考書 | | | | | |
| 成績評価方法 | 定期試験 | レポート | | 計 | |
| | 100　点 | 点 | 点 | 100 点 | |
| 予習･復習のﾎﾟｲﾝﾄ | 配布資料の該当箇所を予習する<br>授業で学んだキーワードを元に学習をすすめる | | | | |

| 授業計画 | | 講師名 |
|---|---|---|
| 第 1 回 | オリエンテーション<br>脳卒中片麻痺の運動障害の治療 | 山根 4/7 |
| 第 2 回 | 脳卒中片麻痺の運動障害の治療 | 山根 4/7 |
| 第 3 回 | 脳卒中片麻痺の上肢機能訓練　回復段階に合わせた治療 | 山根 4/14 |
| 第 4 回 | 脳卒中片麻痺の上肢機能訓練　回復段階に合わせた治療 | 山根 4/14 |
| 第 5 回 | 脳卒中片麻痺の上肢機能訓練　事例検討（PP・実演） | 山根 4/14 |
| 第 6 回 | 脳卒中片麻痺の上肢機能訓練　事例検討（PP・実演） | 山根 4/21 |
| 第 7 回 | 脳卒中片麻痺の上肢機能訓練　事例検討発表（PP・実演） | 山根 4/21 |
| 第 8 回 | 脳卒中片麻痺の上肢機能訓練　事例検討発表（PP・実演） | 山根 4/21 |
| 第 9 回 | 脳卒中片麻痺の上肢機能訓練　関節可動域訓練 | 山根 4/28 |
| 第 10 回 | 脳卒中片麻痺の上肢機能訓練　関節可動域訓練 | 山根 4/28 |
| 第 11 回 | 事例検討人間作業モデル OPHI-Ⅱを用いた評価 | 山根 5/12 |
| 第 12 回 | 事例検討人間作業モデル OPHI-Ⅱを用いた評価 | 山根 5/12 |
| 第 13 回 | 事例検討人間作業モデルを用いた事例検討 1 | 山根 5/19 |
| 第 14 回 | 事例検討人間作業モデルを用いた事例検討 2 | 山根 5/19 |
| 第 15 回 | テスト | 山根 5/26 |
| 備考 | 単位認定方法<br>定期テスト　＝合計 100 点 | |

| 科目名 | 身体障害治療学Ⅲ | 対象学科 | | 作業療法学科 | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | 開講学年 | | 4 学年 | |
| 指定規則科目区分 | 専門分野 | 講義形態 | 講義 | 単位 | 1 単位 |
| | 作業治療学 | コマ数 | 15 コマ | 時間数 | 30 時間 |
| 担当教員<br>(◎印は科目責任者) | ◎　村仲　隼一郎 | | | | |
| 授業概要 | 身体障害治療学Ⅰ及びⅡで学んだ治療法を基に，関節リウマチ、脊髄損傷、末梢神経障害、切断等の身体障害領域の各疾患に対する治療・支援・介入に関する講義内容 | | | | |
| 到達目標 | ・関節リウマチ、脊髄損傷、末梢神経障害、切断の障害像が理解できる<br>・上記疾患の作業療法の治療・支援・介入が理解できる<br>・各疾患に対する、自助具や義肢装具の適応と使用方法を理解できる | | | | |
| 教科書 | 書籍名【出版社】<br>①標準作業療法学　身体機能作業療法学第 2 版【医学書院】 | | | | |
| 参考書 | | | | | |
| 成績評価方法 | 定期試験 | | | 計 | |
| | 100　点 | 点 | 点 | 100 点 | |
| 予習･復習のﾎﾟｲﾝﾄ | | | | | |

| 授業計画 | | 講師名 |
|---|---|---|
| 第 1 回 | 整形外科　　関節リウマチ | 村仲 |
| 第 2 回 | 作業療法治療学　関節リウマチの作業療法 | 村仲 |
| 第 3 回 | 整形外科　　脊髄損傷 | 村仲 |
| 第 4 回 | 作業療法治療学　脊髄損傷の作業療法 | 村仲 |
| 第 5 回 | 作業療法治療学　脊髄損傷の作業療法 | 村仲 |
| 第 6 回 | 作業療法治療学　脊髄損傷の作業療法 | 村仲 |
| 第 7 回 | 整形外科　　骨折 | 村仲 |
| 第 8 回 | 作業療法治療学　骨折の作業療法 | 村仲 |
| 第 9 回 | 整形外科　　末梢神経損傷 | 村仲 |
| 第 10 回 | 作業療法治療学　末梢神経損傷の作業療法 | 村仲 |
| 第 11 回 | 作業療法治療学　末梢神経損傷の作業療法 | 村仲 |
| 第 12 回 | 整形外科・作業療法　　切断と作業療法 | 村仲 |
| 第 13 回 | 義肢装具学　　義肢学 | 村仲 |
| 第 14 回 | 義肢装具学　　装具学 | 村仲 |
| 第 15 回 | まとめ | 村仲 |
| 備考 | | |

| 科目名 | 精神障害治療学Ⅰ | 対象学科 | | 作業療法学科 | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | 開講学年 | | 2学年 | |
| 指定規則科目区分 | 専門分野 | 講義形態 | 講義 | 単位 | 1単位 |
| | 作業治療学 | コマ数 | 15コマ | 時間数 | 30時間 |
| 担当教員<br>(◎印は科目責任者) | ◎　髙橋　知之 | | | | |
| 授業概要 | 精神障害分野で扱う代表的な疾患の障害像と作業療法について学習する | | | | |
| 到達目標 | 精神障害分野における代表的対象疾患について<br>①障害像を説明できる<br>②作業療法を説明できる | | | | |
| 教科書 | 精神障害と作業療法【三輪書店】 | | | | |
| 参考書 | 作業療法評価学【医学書院】 | | | | |

| 成績評価方法 | | | | 計 |
|---|---|---|---|---|
| | 100　点 | 点 | 点 | 100点 |

| 予習･復習のﾎﾟｲﾝﾄ | 授業計画に従って、テキストの関連個所を事前に熟読すること。<br>事業内容に従って、テキストの関連個所を講義後に熟読すること。 |
|---|---|

| 授業計画 | | 講師名 |
|---|---|---|
| 第1回 | 作業療法の実践　統合失調症<br>各回復過程における作業療法の場面構成① | 髙橋 |
| 第2回 | 作業療法の実践　統合失調症<br>各回復過程における作業療法の場面構成② | 髙橋 |
| 第3回 | 作業療法の実践　統合失調症<br>セラピストの態度、関わり方の留意点について。 | 髙橋 |
| 第4回 | 作業療法の実践　統合失調症<br>セラピストの態度、関わり方の留意点について② | 髙橋 |
| 第5回 | 作業療法の実践　統合失調症<br>特徴・病形分類に合わせた対応について | 髙橋 |
| 第6回 | 作業療法の実践　気分障害<br>うつ病の障害像　躁状態の障害像について。① | 髙橋 |
| 第7回 | 作業療法の実践　気分障害<br>うつ病の障害像　躁状態の障害像について。② | 髙橋 |
| 第8回 | 作業療法の実践　神経症性障害の作業療法について | 髙橋 |
| 第9回 | 作業療法の実践　人格障害の作業療法について | 髙橋 |
| 第10回 | 作業療法の実践　接食障害の作業療法について | 髙橋 |
| 第11回 | 作業療法の実践　依存症の作業療法について | 髙橋 |
| 第12回 | 作業療法の実践　てんかん、 | 髙橋 |
| 第13回 | 心理的発達の障害の作業療法について | 髙橋 |
| 第14回 | 作業療法の実践　老年期精神障害（認知症）と作業療法について | 髙橋 |
| 第15回 | まとめ | 髙橋 |
| 備考 | | |

| 科目名 | 精神障害治療学Ⅱ | 対象学科 | | 作業療法学科 | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | 開講学年 | | 3学年 | |
| 指定規則科目区分 | 専門分野 | 講義形態 | 講義 | 単位 | 2単位 |
| | 作業治療学 | コマ数 | 15コマ | 時間数 | 30時間 |
| 担当教員<br>(◎印は科目責任者) | ◎　髙橋　知之 | | | | |
| 授業概要 | テキスト、ペーパーペイシェントを用いて精神障害分野の評価、問題点抽出、目標設定、治療プログラム立案、再評価、終了の一連の流れを学習する | | | | |
| 到達目標 | 精神障害分野の作業療法の実践について説明することができる<br>ペィーパーペイシェントを用いて精神障害分野の作業療法のプログラム立案を実施できる。 | | | | |
| 教科書 | 精神障害と作業療法【三輪書店】 | | | | |
| 参考書 | 精神機能作業療法学【医学書院】精神疾患の理解と精神科作業療法【中央法規】 | | | | |

| 成績評価方法 | 定期試験 | アイテムを選択してください。 | アイテムを選択してください。 | 計 |
|---|---|---|---|---|
| | 100　点 | 点 | 点 | 100点 |

| 授業計画 | | 講師名 |
|---|---|---|
| 第1週 | 治療・援助構造と対象者について説明できる。<br>作業・作業活動の用い方について説明できる。<br>Tx.86-116 | 髙橋 |
| 第2週 | 自己の治療的利用と集団・場の用い方について説明できる。<br>Tx.117-128 | 髙橋 |
| 第3週 | 時間、対象関係、システムについて説明できる。<br>Tx.130-144 | 髙橋 |
| 第4週 | 心理教育とＳＳＴについて説明できる。<br>Tx.346-351 | 髙橋 |
| 第5週 | 地域移行・生活支援と就労支援について説明できる。<br>Tx.228-249　257-261 | 髙橋 |
| 第6週 | 病期に応じた作業療法<br>Tx.220-227 | 髙橋 |
| 第7週 | | 髙橋 |
| 第8回 | 実習前準備<br>エゴグラム　エニアグラムを体験し、自己理解を深める | 髙橋 |
| 第8週 | 価値観について説明できる。 | 髙橋 |
| 第9週 | | 髙橋 |
| 第11回 | | 髙橋 |
| 第10週 | 事例検討<br>ケース２　社会復帰を目指すケース<br>ペーパーペイシェントを用いて、評価計画、評価のまとめ、問題点抽出、焦点化、目標設定、治療プログラム立案を実施で発表 | 髙橋 |
| 第11週 | | 髙橋 |
| 第14回 | | 髙橋 |
| 第15回 | まとめ | |
| 備考 | | |

| 科目名 | 精神障害治療学Ⅲ | 対象学科 | | 作業療法学科 | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | 開講学年 | | 4 学年 | |
| 指定規則科目区分 | 専門分野 | 講義形態 | 講義 | 単位 | 2 単位 |
| | 作業治療学 | コマ数 | 15 コマ | 時間数 | 30 時間 |
| 担当教員（◎印は科目責任者） | ◎　髙橋　知之 | | | | |
| 授業概要 | 精神障害分野の作業療法を学習する | | | | |
| 到達目標 | 精神障害分野の代表的疾患を説明することができる<br>精神障害分野の作業療法を説明できる<br>作業療法で用いられる心理検査について説明できる。<br>作業療法で必要な臨床心理学の知識を説明できる。 | | | | |
| 教科書 | 国家試験問題集　:臨床医学　OT 治療学 | | | | |
| 参考書 | 精神機能作業療法学　精神障害と作業療法　専門基礎分野　精神医学 | | | | |
| 成績評価方法 | 定期試験 | | | 計 | |
| | 100　点 | 点 | 点 | 100 点 | |
| 予習･復習のﾎﾟｲﾝﾄ | 国家試験過去問題集の該当箇所を予習復習すること<br>シラバスにある該当ページを予習すること | | | | |

| 授業計画 | | 講師名 | 日程 |
|---|---|---|---|
| 第 1 回 | 統合失調症　疾患の特徴について説明できる。<br>臨床医学 | 高橋 | |
| 第 2 回 | 統合失調症　疾患の特徴について説明できる。<br>臨床医学 | 高橋 | |
| 第 3 回 | 統合失調症　ＯＴのかかわり方について説明できる。<br>障害別ＯＴ治療 | 高橋 | |
| 第 4 回 | 統合失調症　回復段階に合わせたＯＴについて説明できる。<br>障害別ＯＴ治療 | 高橋 | |
| 第 5 回 | 気分障害　疾患の特徴について説明できる。<br>臨床医学 | 高橋 | |
| 第 6 回 | 気分障害　作業療法について説明できる。<br>障害別ＯＴ治療学 | 高橋 | |
| 第 7 回 | 神経症性障害　疾患の特徴について説明できる。<br>臨床医学　障害別ＯＴ治療学 | 高橋 | |
| 第 8 回 | 依存症（アルコール、薬物など）疾患の特徴と作業療法について説明できる。　臨床医学　障害別ＯＴ治療学 | 高橋 | |
| 第 9 回 | てんかん　疾患の特徴と作業療法について説明できる。<br>臨床医学　障害別ＯＴ治療 | 高橋 | |
| 第 10 回 | 小児期・青年期　臨床医学 363-370<br>自閉症スペクトラム障害　ＯＴ治療学<br>注意欠陥性多動性障害　ＯＴ治療学 | 高橋 | |
| 第 11 回 | 人格障害・摂食障害　疾患の特徴と作業療法について説明できる。<br>臨床医学Ｐ358-361　障害別ＯＴ治療学Ｐ432-462 | 高橋 | |
| 第 12 回 | 認知症　疾患の特徴と作業療法について説明できる。<br>臨床医学　障害別ＯＴ治療 | 高橋 | |
| 第 13 回 | 防衛機制　臨床医学その他　臨床医学 | 高橋 | |
| 第 14 回 | 臨床心理学　臨床医学 | 高橋 | |
| 第 15 回 | まとめ | 高橋 | |

| 科目名 | 発達障害治療学 I | 対象学科 | | 作業療法学科 | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | 開講学年 | | 2 学年 | |
| 指定規則科目区分 | 専門分野 | 講義形態 | 講義 | 単位 | 1 単位 |
| | 作業治療学 | コマ数 | 15 コマ | 時間数 | 30 時間 |
| 担当教員<br>(◎印は科目責任者) | ◎　八重樫　貴之 | | | | |
| 授業概要 | 肢体不自由児（脳性まひなど）の運動障害や発達障害（自閉スペクトラム症や ADHD など）評価のから、治療プログラム立案までのプロセスについて学習することを目的とする | | | | |
| 到達目標 | 肢体不自由児の運動障害の評価結果から治療プログラム立案までのプロセスの概要を述べることができる。 発達障害の評価結果から治療プログラム立案までのプロセスの概要を述べることができる。 | | | | |
| 教科書 | レジュメを配付 | | | | |
| 参考書 | | | | | |
| 成績評価方法 | 定期試験 | | | 計 | |
| | 100　点 | 点 | 点 | 100 点 | |
| 予習･復習のﾎﾟｲﾝﾄ | ・配布するレジュメをよく読んできてください | | | | |

| 授業計画 | | 講師名 |
|---|---|---|
| 第 1 回 | オリエンテーション<br>発達障害と作業療法士の役割 | 八重樫 |
| 第 2 回 | 発達障害領域における作業療法の基礎知識①<br>（原始反射、運動発達、粗大運動発達・姿勢①） | 八重樫 |
| 第 3 回 | 発達障害領域における作業療法の基礎知識②<br>（原始反射、運動発達、粗大運動発達・姿勢②） | 八重樫 |
| 第 4 回 | 発達障害領域における作業療法の基礎知識③<br>（上肢機能と視機能の発達） | 八重樫 |
| 第 5 回 | 発達障害領域における作業療法の基礎知識④<br>（認知、社会的機能の発達） | 八重樫 |
| 第 6 回 | 発達障害領域における作業療法の基礎知識⑤<br>（ADL の発達①） | 八重樫 |
| 第 7 回 | 発達障害領域における作業療法の基礎知識⑤<br>（ADL の発達②） | 八重樫 |
| 第 8 回 | 発達障害領域における作業療法の基礎知識⑤<br>（遊びの発達） | 八重樫 |
| 第 9 回 | 発達障害領域の対象疾患①<br>（脳性麻痺） | 八重樫 |
| 第 10 回 | 発達障害領域の対象疾患②<br>（知的障害、ダウン症） | 八重樫 |
| 第 11 回 | 発達障害領域の対象疾患③<br>（重症心身障害、神経筋疾患、骨疾患） | 八重樫 |
| 第 12 回 | 発達障害領域の対象疾患③<br>（学習障害・注意欠陥多動性障害・ASD 等発達障害） | 八重樫 |
| 第 13 回 | 事例検討<br>（重症心身障害、神経筋疾患、骨疾患） | 専任教員 |
| 第 14 回 | 事例検討<br>（学習障害・注意欠陥多動性障害・ASD 等発達障害） | 専任教員 |
| 第 15 回 | まとめ | |
| 備考 | | |

| 科目名 | 発達障害治療学Ⅱ | 対象学科 | | 作業療法学科 | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | 開講学年 | | 4学年 | |
| 指定規則科目区分 | 専門分野 | 講義形態 | 講義 | 単位 | 1単位 |
| | 作業治療学 | コマ数 | 15コマ | 時間数 | 30時間 |
| 担当教員<br>(◎印は科目責任者) | ◎　神保匡良 | | | | |
| 授業概要 | 発達障害に対する作業療法<br>身体障害に対する作業療法 | | | | |
| 到達目標 | 【知識・技術】各疾患別の作業療法支援を理解することができる<br>【思考力・判断力・表現力】病理→病態→支援のつながりの中で作業療法支援を考えることができる<br>【学びに向かう力】理解の時間を得ることで、学習意欲を高めることができる | | | | |
| 教科書 | クエスチョンバンク | | | | |
| 参考書 | | | | | |

| 成績評価方法 | 定期試験 | | | 計 |
|---|---|---|---|---|
| | 100　点 | 点 | 点 | 点 |

| 授業計画 | | 講師名 |
|---|---|---|
| 第1回 | 脳血管障害① | 神保匡良 |
| 第2回 | 脳血管障害② | 神保匡良 |
| 第3回 | 脳血管障害③ | 神保匡良 |
| 第4回 | 脳血管障害④ | 神保匡良 |
| 第5回 | 高次能機能障害① | 神保匡良 |
| 第6回 | 高次能機能障害② | 神保匡良 |
| 第7回 | 内部障害 | 神保匡良 |
| 第8回 | 老年期障害 | 神保匡良 |
| 第9回 | パーキンソン・小脳疾患・神経筋疾患など | 神保匡良 |
| 第10回 | パーキンソン・小脳疾患・神経筋疾患など | 神保匡良 |
| 第11回 | 正常発達について | 神保匡良 |
| 第12回 | 脳性まひ | 神保匡良 |
| 第13回 | 筋ジストロフィー | 神保匡良 |
| 第14回 | 知的障害・自閉症・ADHD | 神保匡良 |
| 第15回 | 定期試験 | 神保匡良 |
| 備考 | | |

| 科目名 | 高齢期障害治療学 | 対象学科 | | 作業療法学科 | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | 開講学年 | | 3 学年 | |
| 指定規則科目区分 | 専門分野 | 講義形態 | 講義 | 単位 | 1 単位 |
| | 作業治療学 | コマ数 | 15 コマ | 時間数 | 30 時間 |
| 担当教員<br>(◎印は科目責任者) | ◎　村越由季子　山根剛 | | | | |
| 授業概要 | 高齢者の現状を述べ、高齢期障害の一般的特徴、生理機能の変化、高齢者に多い疾患を講義し、高齢期障害に対する作業療法の役割、及び治療を講義する | | | | |
| 到達目標 | ・加齢に伴う心身の変化について説明できる<br>・高齢期の特徴について説明できる<br>・高齢期特有の障害増に対する作業療法の介入を説明できる | | | | |
| 教科書 | 標準作業療法学　専門分野　高齢期作業療法学第 3 版　【医学書院】 | | | | |
| 参考書 | 老人のリハビリテーション第 8 版【医学書院】 | | | | |

| 成績評価方法 | 定期試験 | レポート | | 計 |
|---|---|---|---|---|
| | 80　点 | 20　点 | 点 | 点 |

| 授業計画（村越） | | 講師名 |
|---|---|---|
| 第 1 回 | 高齢社会とは何か　高齢期への適応・QOL・社会活動・家族関係・現代社会について | 村越<br>4/11 |
| 第 2 回 | 高齢期の作業療法について<br>対象者について学びレクリエーション計画を立案する① | 村越<br>4/11 |
| 第 3 回 | 高齢期の一般的特徴 | 村越<br>4/18 |
| 第 4 回 | 高齢期に多い疾患 | 村越<br>4/18 |
| 第 5 回 | 高齢期の作業療法の実践（生活期・終末期） | 村越<br>4/25 |
| 第 6 回 | 作業療法士が理解しておくべき人権と尊厳の説明 | 村越<br>4/25 |
| 第 7 回 | ロコモティブシンドロームについて<br>廃用症候群・誤用症候群・過用症候群について | 村越<br>5/2 |
| 第 8 回 | 腎・泌尿器系疾患のケースの作業療法について | 村越<br>5/2 |
| 第 9 回 | 高齢期の作業療法について<br>対象者について学びレクリエーション計画を立案する② | 村越<br>5/9 |
| 授業計画（山根） | | |
| 第 10 回 | ケーススタディ①　評価計画 | 山根<br>5/9② |
| 第 11 回 | ケーススタディ②　評価計画 | 山根<br>5/16② |
| 第 12 回 | ケーススタディ③　目標設定 | 山根<br>5/16③ |
| 第 13 回 | ケーススタディ④　プログラム設定 | 山根<br>5/23② |

| | | |
|---|---|---|
| | | |
| 第 14 回 | ケーススタディ　まとめ | 山根<br>5/23③ |
| 第 15 回 | 筆記試験 | |
| 備考 | レポートは村越 10 点・山根 10 点分となります。<br>筆記試験は村越・山根それぞれ出題されます。 | |

| 科目名 | 高次神経障害治療学Ⅰ | 対象学科 | | 作業療法学科 | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | 開講学年 | | 2学年 | |
| 指定規則科目区分 | 専門分野 | 講義形態 | 講義 | 単位 | 1単位 |
| | 作業療法評価学 | コマ数 | 15コマ | 時間数 | 30時間 |
| 担当教員<br>(◎印は科目責任者) | ◎　山根　剛　　村越由季子 | | | | |
| 授業概要 | ・高次神経障害の病態像を学ぶ。<br>・高次神経障害の評価法を学ぶ | | | | |
| 到達目標 | ・高次神経障害の病態像のイメージができる<br>・高次神経障害における基本的な病巣と病態の関係を把握し、評価あるいは治療の基本的な考え方に繋げることができる | | | | |
| 教科書 | 標準作業療法学　専門分野　高次脳機能作業療法学（第２版）【医学書院】 | | | | |
| 参考書 | 標準作業療法学　専門分野　作業療法評価学（第３版）　【医歯薬出版】 | | | | |

| 成績評価方法 | 定期試験 | | | 計 |
|---|---|---|---|---|
| | 100　点 | 点 | 点 | 点 |

| 授業計画 | | 講師名 |
|---|---|---|
| 第1回 | 授業概要・概論　脳の機能解剖　高次脳機能障害とは？ | 山根 |
| 第2回 | 失語症・失読・失書の分類と評価・治療 | 山根 |
| 第3回 | 記憶障害の分類と評価・治療 | 山根 |
| 第4回 | 記憶障害の検査実技　三宅式　ベントン　ウエクスラー記憶尺度など | 山根 |
| 第5回 | 遂行機能障害・社会的行動障害の分類と評価・治療 | 山根 |
| 第6回 | 遂行機能障害・社会的行動障害の検査実技 BADS　FAB | 山根 |
| 第7回 | 失行　行為障害の分類と評価・治療 | 10/25<br>村越 |
| 第8回 | 失行の検査実技　スクリーニング　SPTA | 10/25<br>村越 |
| 第9回 | 注意障害　注意障害の分類と評価・治療 | 11/1<br>村越 |
| 第10回 | 注意障害の検査実技　TMT　かなひろい　CAT | 11/1<br>村越 |
| 第11回 | 半側空間無視の分類と評価・治療 | 11/8<br>村越 |
| 第12回 | 半側空間無視の検査実技　BIT | 11/8<br>村越 |
| 第13回 | 失認の分類と評価・治療 | 11/15<br>村越 |
| 第14回 | 失認の検査実技　スクリーニング　VPTA | 11/29<br>村越 |
| 第15回 | まとめ | |
| 備考 | | |

| 科目名 | 高次神経障害治療学Ⅱ | 対象学科 | | 作業療法学科 | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | 開講学年 | | 4学年 | |
| 指定規則科目区分 | 専門分野 | 講義形態 | 講義 | 単位 | 1単位 |
| | 作業治療学 | コマ数 | 15コマ | 時間数 | 30時間 |
| 担当教員<br>(◎印は科目責任者) | ◎　山根　剛 | | | | |
| 授業概要 | ・高次神経障害の病態像を学ぶ。<br>・高次神経障害の評価法を学ぶ。 | | | | |
| 到達目標 | ・高次神経障害の病態像のイメージができる<br>・高次神経障害における基本的な病巣と病態の関係を把握し、評価あるいは治療の基本的な考え方に繋げることができる | | | | |
| 教科書 | クエスチョン・バンク理学療法士・作業療法士国家試験問題解説 2021 共通問題【メディック】 | | | | |
| 参考書 | クエスチョン・バンク 作業療法士 国家試験問題解説 2021 専門問題【メディック】<br>病気がみえる vol.7 脳・神経 第4版【メディック】<br>プロメテウス解剖学アトラス　頭頚部/神経解剖【医学書院】<br>脳卒中ビジュアルテキスト第3版【医学書院】<br>PT・OT 基礎から学ぶ画像の読み方【医歯薬出版】 | | | | |
| 成績評価方法 | 定期試験 | | | 計 | |
| | 100　点 | 点 | 点 | 100点 | |
| 予習･復習のﾎﾟｲﾝﾄ | ・解剖学Ⅱの内容を復習しておいてください.<br>・神経内科学の内容を復習しておいてください. | | | | |

| 授業計画 | | 講師名 |
|---|---|---|
| 第1回 | 発生と組織（共通：144～150） | 山根 |
| 第2回 | 発生と組織（共通：144～150） | 山根 |
| 第3回 | 神経細胞の構造（共通：258～264）<br>神経伝達物質（共通：265）脳波（共通：269～271） | 山根 |
| 第4回 | 神経細胞の構造（共通：258～264）<br>神経伝達物質（共通：265）脳波（共通：269～271） | 山根 |
| 第5回 | 神経系のマクロ構造と機能<br>中枢神経系の解剖（共通：1～17）神経解剖学（解剖Ⅱ）に関する資料を持参すること | 山根 |
| 第6回 | 神経系のマクロ構造と機能<br>中枢神経系の解剖（共通：1～17）神経解剖学（解剖Ⅱ）に関する資料を持参すること | 山根 |
| 第7回 | 神経系のマクロ構造と機能<br>脊髄・伝導路（共通：18～27）脳神経（共通：27～36）自律神経（共通：266～268） | 山根 |
| 第8回 | 神経系のマクロ構造と機能<br>脊髄・伝導路（共通：18～27）脳神経（共通：27～36）自律神経（共通：266～268） | 山根 |
| 第9回 | 脳血管障害の原因と病態（共通：574～585）<br>神経病理に関連する資料を持参すること | 山根 |
| 第10回 | 高次脳機能障害（共通：539～554）<br>高次脳機能障害学、神経解剖学に関連する資料を持参すること | 山根 |
| 第11回 | 変性疾患　（共通：627～635） | 山根 |

| | | |
|---|---|---|
| 第 12 回 | 自己免疫疾患　（共通：636～646） | 山根 |
| 第 13 回 | 筋疾患　（共通：647～656） | 山根 |
| 第 14 回 | 脳腫瘍（共通:613～614）正常圧水頭症（共通:625～627） | 山根 |
| 第 15 回 | まとめ | 山根 |
| 備考 | | |

| 科目名 | 義肢装具学 | 対象学科 | | 作業療法学科 | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | 開講学年 | | 3 学年 | |
| 指定規則科目区分 | 専門分野 | 講義形態 | 講義 | 単位 | 1 単位 |
| | 作業治療学 | コマ数 | 15 コマ | 時間数 | 30 時間 |
| 担当教員<br>(◎印は科目責任者) | ◎　井上　由貴 | | | | |
| 授業概要 | 義足、義手、スプリント、装具に関する知識の習得、安静時スプリントの製作演習 | | | | |
| 到達目標 | 疾患に対するスプリント･義手・義足・体幹装具などの役割を理解する。クライアントに適した補装具を選択、チェックアウトできる。ＯＴとしてクライエントに必要な上肢スプリントを製作することができる。 | | | | |
| 教科書 | 作業療法学全書　作業療法技術学１　義肢装具学　【協同医書出版】 | | | | |
| 参考書 | | | | | |

| 成績評価方法 | 定期試験 | | | 計 |
|---|---|---|---|---|
| | 100　点 | | 点 | 100 点 |

| 予習･復習のﾎﾟｲﾝﾄ | 予習：授業計画の部分の教科書を読む。学習課題とキーワード概要を確認しておく。<br>復習：教科書の演習問題を解く。 |
|---|---|

| 授業計画 | | 講師名 |
|---|---|---|
| 第 1 回 | オリエンテーション、義肢装具学概論<br>[義肢装具学　ｐ1-11] | 井上 |
| 第 2 回 | 歴史、切断の原因・部位、義手、義足<br>[義肢装具学　ｐ13-25] | 井上 |
| 第 3 回 | 義手の扱い方、弾性包帯の巻き方、構成要素、機能<br>[義肢装具学　ｐ27-39] | 井上 |
| 第 4 回 | 義手の装着前後の訓練<br>[義肢装具学　ｐ40-45] | 井上 |
| 第 5 回 | チェックアウト、仮義手<br>[義肢装具学　ｐ45-65] | 井上 |
| 第 6 回 | 筋電義手、適応疾患例<br>[義肢装具学　ｐ66-81(筋電義手)、ｐ85-121(適応疾患例)] | 井上 |
| 第 7 回 | 下肢・体幹・上肢装具<br>[義肢装具学　ｐ123-151] | 井上 |
| 第 8 回 | 適応、分類、目的、条件、ＯＴの役割<br>[義肢装具学　ｐ155-164] | 井上 |
| 第 9 回 | 頚髄損傷、関節リウマチ、末梢神経損傷<br>[義肢装具学　ｐ187-209] | 井上 |
| 第 10 回 | 末梢神経損傷、手の外科・ハンドセラピー、脳血管障害<br>[義肢装具学　ｐ209-230] | 井上 |
| 第 11 回 | 製作の流れ、チェックアウト、基本項目<br>[義肢装具学　ｐ165-185] | 井上 |
| 第 12 回 | メジャーリング | 井上 |
| 第 13 回 | 安静時スプリント製作 | 井上 |
| 第 14 回 | 安静時スプリント製作 | 井上 |
| 第 15 回 | まとめ | 井上 |
| 備考 | | |

| 科目名 | 日常生活活動学Ⅱ | 対象学科 | | 作業療法学科 | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | 開講学年 | | 2学年 | |
| 指定規則科目区分 | 専門分野 | 講義形態 | 講義 | 単位 | 2単位 |
| | 作業治療学 | コマ数 | 30コマ | 時間数 | 60時間 |
| 担当教員<br>(◎印は科目責任者) | ◎　神保匡良 | | | | |
| 授業概要 | 障害像に合わせたＡＤＬへの治療的介入について理解する | | | | |
| 到達目標 | 「病理」➡「病態」➡「支援方法」をつなげて理解することができる | | | | |
| カリキュラムの<br>中での位置づけ | | | | | |
| 教科書 | 病気が見えるシリーズ | | | | |
| 参考書 | | | | | |
| 成績評価方法 | 定期試験 | | | 計 | |
| | 100　点 | 点 | 点 | 100点 | |

| 授業計画 | | 講師名 |
|---|---|---|
| 第1回 | 脳血管障害：片麻痺体験・片麻痺の起居動作（ポジショニング）が理解できる | 神保匡 |
| 第2回 | 脳血管障害：片麻痺体験・片麻痺の起居動作（ポジショニング）が理解できる | 神保匡 |
| 第3回 | 脳血管障害：片麻痺体験・片麻痺の起居動作（ポジショニング）が理解できる | 神保匡 |
| 第4回 | 脳血管障害：片麻痺患者の更衣動作が理解できる | 神保匡 |
| 第5回 | 脳血管障害：片麻痺患者の食事動作が理解できる | 神保匡 |
| 第6回 | 脳血管障害：片麻痺患者の入浴動作の特徴が理解できる | 神保匡 |
| 第7回 | 脳血管障害：片麻痺患者の排泄動作が理解できる | 神保匡 |
| 第8回 | 脳血管障害：ケーススタディー | 神保匡 |
| 第9回 | 脊髄損傷：Zancoliiの分類を理解する | 神保匡 |
| 第10回 | 脊髄損傷者のADL（損傷部位と残存機能） | 神保匡 |
| 第11回 | 脊髄損傷者のADL残存機能レベルと到達目標 | 神保匡 |
| 第12回 | 脊髄損傷者のADL住環境について | 神保匡 |
| 第13回 | 脊髄損傷：損傷レベル別介入が理解できる　起居・移乗 | 神保匡 |
| 第14回 | 脊髄損傷：損傷レベル別介入が理解できる　ＢＡＤＬ | 神保匡 |
| 第15回 | 中間試験 | 神保匡 |
| 第16回 | パーキンソン病① | 神保匡 |
| 第17回 | パーキンソン病② | 神保匡 |
| 第18回 | ALS① | 神保匡 |
| 第19回 | ALS② | 神保匡 |
| 第20回 | 小脳障害 | 神保匡 |
| 第21回 | 筋ジストロフィー | 神保匡 |
| 第22回 | リウマチ | 神保匡 |
| 第23回 | 心疾患① | 神保匡 |
| 第24回 | 心疾患② | 神保匡 |
| 第25回 | 高次脳機能障害① | 神保匡 |
| 第26回 | 高次脳機能障害② | 神保匡 |
| 第27回 | 高次脳機能障害③ | 神保匡 |

| | | |
|---|---|---|
| 第 28 回 | 呼吸器疾患① | 神保匡 |
| 第 29 回 | 呼吸器疾患② | 神保匡 |
| 第 30 回 | まとめ | 神保匡 |
| 備考 | | |

| 科目名 | 作業療法研究法 | 対象学科 | | 作業療法学科 | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | 開講学年 | | 3 学年 | |
| 指定規則科目区分 | 専門分野 | 講義形態 | 講義 | 単位 | 1 単位 |
| | 作業治療学 | コマ数 | 15 コマ | 時間数 | 30 時間 |
| 担当教員<br>(◎印は科目責任者) | ◎　村仲隼一郎 | | | | |
| 授業概要 | 作業療法における研究の位置づけを理解し、卒業研究実施のための基礎固めをする | | | | |
| 到達目標 | 作業療法士にとっての研究の必要性を理解する。<br>文献レビューの必要性と方法が理解できる<br>量的研究と質的研究の違いが理解できる<br>事例研究の必要性を理解し、その作法が分かる<br>研究疑問を遂行することが出来る<br>統計の基本的知識を理解する | | | | |
| 教科書 | 作業療法研究法　第２版 | | | | |
| 参考書 | 作業で語る事例報告　作業療法レジュメの書き方考え方【医学書院】 | | | | |
| 成績評価方法 | レポート１ | レポート２ | 発表 | 計 | |
| | 33 点 | 33 点 | 33 点 | 100 点 | |
| 予習･復習のﾎﾟｲﾝﾄ | 教科書の該当箇所を予習する<br>授業で提示されたキーワードを復習する | | | | |

| 授業計画 | | | 講師名 |
|---|---|---|---|
| 第 1 回 | 作業療法士は何のために研究をするのか理解する | | 村仲 |
| 第 2 回 | | | |
| 第 3 回 | 事例研究概論と演習 | | |
| 第 4 回 | 事例研究を査読者の視点から批判的吟味を行う | | |
| 第 5 回 | 統計の知識を持つ　　平均、分散と標準偏差、普遍分散、偏差値、母集団と標本、区間推定と信頼区間、について説明できる | | |
| 第 6 回 | 統計の知識を持つ　　帰無仮説と対立仮説、有意水準（１%と５%）と棄却域について説明できる　各種検定について説明できる | | |
| 第 7 回 | 統計の知識を持つ<br>エクセルを用いて検定を実施できる | | |
| 第 8 回 | 統計の知識を持つ<br>エクセルを用いて検定を実施できる | | |
| 第 9 回 | ①作業療法実践の中で湧き上がった疑問を、研究疑問、仮説にするという研究の流れを理解する<br>②自分の研究疑問が、研究に値するかを判断するためには文献検索が必要であることが理解できる | | |
| 第 10 回 | 文献レビューの目的について理解する | | |
| 第 11 回 | 文献レビュー演習　文献検索方法について | | |
| 第 12 回 | 情報科学実習室で Cinii, Google shcoler, 医中誌の使い方を演習する | | |
| 第 13 回 | 研究計画の作り方　講義・演習 | | |
| 第 14 回 | | | |
| 第 15 回 | 研究計画発表 | | |

| 科目名 | 卒業研究Ⅰ | 対象学科 | | 作業療法学科 | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | 開講学年 | | 4学年 | |
| 指定規則科目区分 | 専門分野 | 講義形態 | 演習 | 単位 | 5単位 |
| | 作業治療学 | コマ数 | 60コマ | 時間数 | 150時間 |
| 担当教員<br>(◎印は科目責任者) | ◎　髙橋　知之　　専任教員 | | | | |
| 授業概要 | 作業療法分野の研究実践 | | | | |
| 到達目標 | 1.作業療法分野の文献を検索できる<br>2.作業療法の文献を整理・分析できる<br>3.プレゼンテーション資料の作成ができ、発表できる。<br>4.研究報告書を作成できる。 | | | | |
| 教科書 | 配布資料 | | | | |
| 参考書 | | | | | |

| 成績評価方法 | レポート | プレゼンテーション | | 計 |
|---|---|---|---|---|
| | 70　点 | 30　点 | 点 | 100点 |
| 予習･復習のﾎﾟｲﾝﾄ | | | | |

| 授業計画 | | 講師名 |
|---|---|---|
| | 1．卒業研究オリエンテーション<br>卒業研究ガイドラインの説明 | 髙橋<br>山根<br>神保匡<br>村仲<br>村越 |
| | 2．研究実施<br>各担当教員とともに研究を随時実施する（概ね8週間）<br>テーマの絞り込み　フレーミング　研究計画書作成<br>文献レビュー　発表資料作成　発表原稿作成 | 髙橋<br>山根<br>神保匡<br>村仲<br>村越 |
| | 3．研究発表<br>スライドを用いて、研究の口述発表（プレゼンテーション）を行う。 | 髙橋<br>山根<br>神保匡<br>村仲<br>村越 |
| | 4．卒業研究論文作成<br>各担当教員とともに研究論文作成を随時行う（概ね4週間） | 髙橋<br>山根<br>神保匡<br>村仲<br>村越 |
| 備考 | 各〆切を厳守すること | |

| 科目名 | 卒業研究Ⅱ | 対象学科 | | 作業療法学科 | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | 開講学年 | | 4学年 | |
| 指定規則科目区分 | 専門分野 | 講義形態 | 演習 | 単位 | 1単位 |
| | 作業治療学 | コマ数 | 15コマ | 時間数 | 30時間 |
| 担当教員<br>(◎印は科目責任者) | ◎　髙橋　知之　　専任教員 | | | | |
| 授業概要 | 作業療法分野の研究の理解と実践 | | | | |
| 到達目標 | 1.作業療法の研究手順を説明できる。<br>2.作業療法分野の文献検索を実施できる。<br>3.作業療法の文献を整理・分析を説明できる。<br>4.プレゼンテーション技術について説明できる | | | | |
| 教科書 | 配布資料 | | | | |
| 参考書 | 文献レビューのきほん―看護研究・看護実践の質を高める<br>作業療法研究法 第2版（標準作業療法学 専門分野） | | | | |

| 成績評価方法 | レポート | | | 計 |
|---|---|---|---|---|
| | 100　点 | 点 | 点 | 100点 |

| 予習･復習のﾎﾟｲﾝﾄ | 各回の配布資料を読んでくること |
|---|---|

| 授業計画 | | 講師名 |
|---|---|---|
| 第1回 | 【卒業研究概論】卒業研究オリエンテーション | 高橋 |
| 第2回 | 【卒業研究概論】文献研究に関する基礎知識　概要 | 山根 |
| 第3回 | 【卒業研究概論】文献レビューの流れ | 山根 |
| 第4回 | 【卒業研究概論】文献レビューの実際 | 山根 |
| 第5回 | 【課題設定】研究テーマの設定について | 専任 |
| 第6回 | 【課題設定】研究テーマの設定について | 専任 |
| 第7回 | 【課題設定】研究疑問を持つ | 専任 |
| 第8回 | 【課題設定】研究疑問を持つ | 専任 |
| 第9回 | 【課題設定】研究疑問を絞り込む方法について | 専任 |
| 第10回 | 【課題設定】研究疑問を絞り込む | 専任 |
| 第11回 | 【課題設定】研究疑問を絞り込む | 専任 |
| 第12回 | 【課題設定】良い研究疑問を設定するためには | 専任 |
| 第13回 | 【課題設定】良い研究疑問を設定できているか確認する | 専任 |
| 第14回 | 【課題設定】研究テーマを決める | 専任 |
| 第15回 | 【課題設定】研究テーマを決める | 専任 |

| 備考 | 各〆切の期日を必ず守ること |
|---|---|

| 科目名 | 生活環境学Ⅰ | 対象学科 | | 作業療法学科 | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | 開講学年 | | 2学年 | |
| 指定規則科目区分 | 専門分野 | 講義形態 | 講義 | 単位 | 1単位 |
| | 地域作業療法学 | コマ数 | 15コマ | 時間数 | 30時間 |
| 担当教員<br>(◎印は科目責任者) | ◎　神保匡良 | | | | |
| 授業概要 | 機能代償の手段としての環境整備の考え方やﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ機器の種類を知り、適用技術を学ぶ。 | | | | |
| 到達目標 | 【知識・技術】福祉用具の名称と機能を理解することができる。人間作業モデルやアフォーダンス理論など環境に関する理論を理解することができる。<br>【思考力・判断力】各疾患と福祉用具の特徴を関連付けて考えることができる。理論の観点から福祉用具がクライエントに与える影響を説明することができる。<br>【学びに向かう力】環境に対する理解を深めていくことで作業療法の興味関心を高める | | | | |
| 教科書 | 作業療法学全書　作業療法技術学10　福祉用具の考え方・住環境整備　【協同医書】 | | | | |
| 参考書 | | | | | |
| 成績評価方法 | 定期試験 | | | 計 | |
| | 100　点 | 点 | 点 | 点 | |

| 授業計画 | | 講師名 |
|---|---|---|
| 第1回 | 福祉用具総論①<br>「福祉用具と作業療法士の役割」「福祉用具の適用論」 | 神保匡良 4/8 |
| 第2回 | 福祉用具総論②<br>「福祉用具と作業療法士の役割」「福祉用具の適用論」 | 神保匡良 4/8 |
| 第3回 | 福祉用具の適用「臥位/起居・移乗」① | 神保匡良 4/15 |
| 第4回 | 福祉用具の適用「臥位/起居・移乗」② | 神保匡良 4/15 |
| 第5回 | 福祉用具の適用「食事・整容」 | 神保匡良 4/22 |
| 第6回 | 福祉用具の適用「入浴・排泄」 | 神保匡良 4/22 |
| 第7回 | 福祉用具の適用「移動（杖）」 | 神保匡良 5/13 |
| 第8回 | 疾患別福祉用具適用例：リウマチ① | 神保匡良 5/13 |
| 第9回 | 疾患別福祉用具適用例：リウマチ② | 神保匡良 5/20 |
| 第10回 | 人間作業モデルを理解する（環境）① | 神保匡良 5/20 |
| 第11回 | 人間作業モデルを理解する（環境）② | 神保匡良 5/27 |
| 第12回 | 事例検討 | 神保匡良 5/27 |
| 第13回 | 事例検討 | 神保匡良 6/3 |
| 第14回 | まとめ | 神保匡良 6/3 |
| 第15回 | 筆記試験 | 神保匡良 |
| 備考 | | |

| 科目名 | 生活環境学Ⅱ | 対象学科 | | 作業療法学科 | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | 開講学年 | | 4学年 | |
| 指定規則科目区分 | 専門分野 | 講義形態 | 講義 | 単位 | 1単位 |
| | 地域作業療法学 | コマ数 | 15コマ | 時間数 | 30時間 |
| 担当教員<br>(◎印は科目責任者) | ◎　山根　剛 | | | | |
| 授業概要 | 住環境整備について作業療法士の関わり方を学習する.<br>医療、介護、福祉サービスに関わる法律や制度について学習する | | | | |
| 到達目標 | 環境調整についてそのプロセスや具体的方法を理解する<br>作業療法士に関わる法律、制度について理解する | | | | |
| 教科書 | クエスチョンバンク　専門・共通 | | | | |
| 参考書 | 書籍名【出版社】PTOT国家試験必修ポイント:臨床医学　基礎OT | | | | |
| 成績評価方法 | 定期試験 | | | 計 | |
| | 100　点 | 点 | 点 | 100点 | |
| 予習･復習のﾎﾟｲﾝﾄ | 教科書の該当箇所を予習する<br>授業で学んだキーワードを元に学習をすすめる | | | | |

| 授業計画 | | 講師名 |
|---|---|---|
| 第1回 | 関連法規 PTOT法　QB専門 P25-27<br>精神保健及び精神障害者の福祉に関する法律・医療観察法 QB専門 P28-32 | 山根 |
| 第2回 | 障害者総合支援法　QB専門 P40-57 | 山根 |
| 第3回 | 介護保険法　QB専門 P40-57 | 山根 |
| 第4回 | 地域包括ケアシステム　1次・2次・3次予防 QB専門 P40-57 | 山根 |
| 第5回 | 地域生活移行支援　QB専門 P57-79 | 山根 |
| 第6回 | 就労支援　職業前評価　QB専門 P79-90 | 山根 |
| 第7回 | 職業前評価　QB専門 P79-90 | 山根 |
| 第8回 | 車椅子　QB専門 P222-261 | 山根 |
| 第9回 | 環境整備 QB専門 P222-261 | 山根 |
| 第10回 | 自助具　QB専門 P222-261 | 山根 |
| 第11回 | 褥瘡予防・ポジショニング　QB専門 P261-266 | 山根 |
| 第12回 | 感染対策・リスクマネジメント　QB専門 P110-118 | 山根 |
| 第13回 | 医療記録・症例研究・研究法　QB専門 P91-109　共通 P898-899 | 山根 |
| 第14回 | 医療記録・症例研究・研究法　QB専門 P91-109　共通 P898-899 | 山根 |
| 第15回 | まとめ | 山根 |
| 備考 | | |

| 科目名 | 地域作業療法学Ⅰ | 対象学科 | | 作業療法学科 | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | 開講学年 | | 3学年 | |
| 指定規則科目区分 | 専門分野 | 講義形態 | 講義 | 単位 | 1単位 |
| | 地域作業療法学 | コマ数 | 15コマ | 時間数 | 30時間 |
| 担当教員<br>(◎印は科目責任者) | ◎　村越　由季子　山根　剛 | | | | |
| 授業概要 | 地域リハビリテーションとは何かを理解し、地域作業療法による支援を実施するために必要な各施設の仕組み・法制度を理解する | | | | |
| 到達目標 | （模擬事例に対し、地域作業療法プログラムを立案することができる。）<br>介護保険制度（地域包括ケアシステム）、介護予防事業、障害者総合支援制度を理解し、該当する国家試験問題が解けるようになる。 | | | | |
| 教科書 | 書籍名【出版社】　適時プリントを配布 | | | | |
| 参考書 | 書籍名【出版社】　地域作業療法学　医学書院<br>地域作業療法学　医歯薬出版 | | | | |
| 成績評価方法 | 定期試験 | レポート | | 計 | |
| | 80点 | 20点 | 点 | 点 | |

| 授業計画 | | 講師名 |
|---|---|---|
| 第1回 | 社会保障制度について　P39～58 | 村越<br>4/8 |
| 第2回 | 社会保障制度の国試を調べまとめる、小テスト・解説作成 | 村越<br>4/8 |
| 第3回 | ふれあいグループの施設・地域の文脈について調べる・発表準備 | 村越<br>4/8 |
| 第4回 | ふれあいグループの施設・地域の文脈について調べる・発表準備 | 村越<br>4/8 |
| 第5回 | 障害者総合支援法　P58～65 | 村越<br>4/15 |
| 第6回 | 総合支援法の国試を調べまとめる、小テスト・解説作成 | 村越<br>4/15 |
| 第7回 | 介護保険制度について　P39～58 | 村越<br>4/22 |
| 第8回 | 介護保険制度の国試を調べまとめる、小テスト・解説作成 | 村越<br>4/22 |
| 第9回 | 住環境について | 山根<br>5/12 |
| 第10回 | 地域リハビリテーションとは　P2～36 | 村越<br>5/13 |
| 第11回 | 地域作業療法とは　P2～36 | 村越<br>5/13 |
| 第12回 | 身体障害領域の地域リハビリテーション | 村越<br>5/20 |
| 第13回 | 高齢期領域の地域リハビリテーション | 村越<br>5/20 |
| 第14回 | ふれあいグループの施設について発表 | 村越<br>5/23 |

| | | |
|---|---|---|
| 第 15 回 | テスト | |
| 備考 | レポートは社会保障制度の国試、総合支援法の国試、介護保険法の国試、グループの発表資料各 5 点 20 点分となります。<br>各国家試験が調べ終わり、時間が余った場合はバリアフリーデザインの住環境整備、訪問作業療法等地域リハビリテーションに関係する問題も調べておくとよいです（試験範囲） | |

| 科目名 | 地域作業療法学Ⅱ | 対象学科 | | 作業療法学科 | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | 開講学年 | | 4学年 | |
| 指定規則科目区分 | 専門基礎分野 | 講義形態 | 講義 | 単位 | 1単位 |
| | 保健医療福祉とリハビリテーションの理念 | コマ数 | 15コマ | 時間数 | 30時間 |
| 担当教員<br>(◎印は科目責任者) | ◎　村越　由季子 | | | | |
| 授業概要 | 運動器の生理学、解剖学を理解する | | | | |
| 到達目標 | 1.筋生理学を理解する<br>2感覚について理解する<br>3.運動器について理解する | | | | |
| 教科書 | クエスチョンバンク　共通問題 | | | | |
| 参考書 | 配布資料<br>病気が見える7　脳・神経【メディックメディア】<br>プロメテウス　解剖学アトラス　運動器系　【医学書院】<br>基礎運動学　【医歯薬出版】<br>解剖学　第3版　【医学書院】 | | | | |

| 成績評価方法 | 定期試験 | | | 計 |
|---|---|---|---|---|
| | 100　点 | 点 | 点 | 点 |

| 授業計画 | | 講師名 |
|---|---|---|
| 第1回 | 【筋生理学　骨格筋】　筋原線維　骨格筋の特徴　運動単位 | 村越 |
| 第2回 | 【筋生理学　骨格筋】　筋収縮の生理　筋紡錘　ゴルジ腱器官　伸張反射 | 村越 |
| 第3回 | 【感覚】　皮膚の構造　感覚受容器　視覚器　視覚路 | 村越 |
| 第4回 | 【感覚】　聴覚器 | 村越 |
| 第5回 | 【運動機能学　骨】　骨　関節　上肢　下肢 | 村越 |
| 第6回 | 【運動機能学　骨】　骨　関節　上肢　下肢 | 村越 |
| 第7回 | 【運動機能学　神経支配】　上肢・二重神経支配 | 村越 |
| 第8回 | 【運動機能学　筋】　上肢 | 村越 |
| 第9回 | 【運動機能学　神経支配】　下肢・二重神経支配 | 村越 |
| 第10回 | 【運動機能学　筋】　下肢 | 村越 |
| 第11回 | 【運動機能学　筋】　頭部　頸部　体幹 | 村越 |
| 第12回 | 【運動機能学　運動学】　正常歩行 | 村越 |
| 第13回 | 【運動機能学　運動学】　バイオメカニクス | 村越 |
| 第14回 | 【運動機能学　運動学】　姿勢　運動学習 | 村越 |
| 第15回 | まとめ | 村越 |
| 備考 | | |

| 科目名 | 地域リハビリテーション実習 | 対象学科 | | 作業療法学科 | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | 対象学年 | | ２年 | |
| 指定規則科目区分 | 専門分野 | 講義形態 | 実習 | 単位 | 1 |
| | 臨床実習 | 日数 | ６日 | 時間数 | 45 |
| 担当教員<br>（◎印は科目責任者） | ◎　　髙橋　知之 | | | | |
| 授業概要 | 超高齢化社会に向けて今後、通所及び訪問によるリハビリテーション支援の知識・体験が重要となる。<br>通所または訪問施設の機能を理解し、臨床実習指導者の下で学生が学んだ評価を実施し、患者（利用者）を理解するための知識・技術と臨床実習生としての態度を身に付ける<br>障害を有する患者（利用者を理解し、個々のニードを導き出すための作業療法評価を理解し、可能であれば臨床実習指導者の下、検査等を実施する | | | | |
| 到達目標 | 通所または訪問施設の機能を理解し、臨床実習指導者の下で学生が学んだ評価を実施し、患者（利用者）を理解するための知識・技術と臨床実習性としての態度を身に付ける | | | | |
| 教科書 | 書籍名【出版社】 | | | | |
| 参考書 | 書籍名【出版社】 | | | | |
| 成績評価方法 | | | | 計 | |
| | 点 | 点 | 点 | 100 点 | |
| 予習･復習のﾎﾟｲﾝﾄ | 実習要綱を熟読すること<br>指導者より頂いた指導・助言を振り返り、デイリーノートに記載する<br>必要であれば、後日指導者・教員に質問し理解を深める | | | | |

| 授業計画 | | 講師名 |
|---|---|---|
| 第１日目 | 施設オリエンテーション<br>病棟見学 | 髙橋 |
| 第２日目 | ＯＴ見学<br>ＰＴ見学 | 髙橋 |
| 第３日目 | ＳＴ見学<br>治療・評価見学 | 髙橋 |
| 第４日目 | 治療・評価見学　模倣 | 髙橋 |
| 第５日目 | 治療・評価見学　模倣<br>一部検査の実施 | 髙橋 |
| 第６日目 | 治療・評価見学　模倣<br>一部検査の実施 | 髙橋 |
| セミナー | グループディスカッション　発表 | 髙橋 |
| 備考 | | |

各部門・施設の見学の順番、回数は指定はしない
到達目標に必要となる見学・体験を実施

| 科目名 | 身体障害評価技術演習 | 対象学科 | | 作業療法学科 | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | 開講学年 | | 2 学年 | |
| 指定規則科目区分 | 専門分野 | 講義形態 | 演習 | 指定規則科目区分 | 1 単位 |
| | 臨床実習 | コマ数 | 15 コマ | 時間数 | 30 時間 |
| 担当教員<br>(◎印は科目責任者) | ◎　村仲　隼一郎　神保匡良　村越由季子　山根剛　高橋知之 | | | | |
| 授業概要 | 評価実習に参加するにふさわしい、作業療法士としての態度と技能を養うこと．評価項目の列挙やその実施は、グループ単位でおこなう． | | | | |
| 到達目標 | ・事例に対して、適切な実技が滞りなく実施できること．<br>・作業療法の説明等を含む円滑なコミュニケーションを遂行できること． | | | | |
| 教科書 | ・今までの評価技術に関する教科書全て | | | | |
| 参考資料 | ・上記参照 | | | | |
| 成績評価方法 | OSCE | | | 成績評価方法 | |
| | 100　点 | | | 100 点 | |

| 授業計画 | | 講師名 |
|---|---|---|
| 第 1 回 | 事例を想定した実技<br>ROM | 村越 |
| 第 2 回 | 事例を想定した実技<br>ROM | 村越 |
| 第 3 回 | 事例を想定した実技<br>感覚 | 山根 |
| 第 4 回 | 事例を想定した実技<br>感覚 | 山根 |
| 第 5 回 | 事例を想定した実技<br>感覚 | 山根 |
| 第 6 回 | 事例を想定した実技<br>ROM・感覚　形成的評価に向けての準備 | 村越 |
| 第 7 回 | **形成的評価**<br>**ROM・感覚** | 村越 |
| 第 8 回 | 事例を想定した実技<br>MMT | 村仲 |
| 第 9 回 | 事例を想定した実技<br>MMT | 村仲 |
| 第 10 回 | 事例を想定した実技<br>MMT | 村仲 |
| 第 11 回 | 事例を想定した実技<br>BRS・STEF・MAL | 神保 |
| 第 12 回 | 事例を想定した実技<br>BRS・STEF・MAL | 神保 |
| 第 13 回 | 事例を想定した実技<br>BRS・STEF・MAL | 神保 |
| 第 14 回 | **形成的評価**<br>**MMT・BRS・STEF・MAL** | 神保 |
| 第 15 回 | OSCE 実技試験 | |
| 備考 | OSCE 実技試験を前期・後期に分けて実施いたします。<br>前期は第 1～7 回まで後期は第 8～14 回までです | |

| 科目名 | 作業療法治療技術演習 | 対象学科 | | 作業療法学科 | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | 開講学年 | | 3 学年 | |
| 指定規則科目区分 | 専門分野 | 講義形態 | 演習 | 単位 | 1 単位 |
| | 臨床実習 | コマ数 | 15 コマ | 時間数 | 30 時間 |
| 担当教員<br>(◎印は科目責任者) | ◎　村仲　隼一郎　神保匡良　村越由季子　山根剛　高橋知之 | | | | |
| 授業概要 | 総合臨床実習Ⅱの参加にふさわしい、作業療法士としての態度と技能を養うこと．評価項目の列挙や実施を通し、作業療法の実践の素地を養う | | | | |
| 到達目標 | ・各事例に対して、適切な評価の列挙・その理由・実施が滞りなく実施できること．<br>・作業療法の説明等を含む円滑なコミュニケーションを遂行できること． | | | | |
| 教科書 | ・今までの評価・治療技術に関する教科書全て | | | | |
| 参考資料 | ・上記参照 | | | | |

| 成績評価方法 | OSCE | | | 計 |
|---|---|---|---|---|
| | 100　点 | 点 | 点 | 100 点 |

| 予習･復習のﾎﾟｲﾝﾄ | 各事例に応じた、評価・治療技術が滞りなく実施できるような練習を行なうこと |
|---|---|

| 授業計画 | | 講師名 |
|---|---|---|
| 第 1 回 | 事例（事例 1）の提示　事例に相応しい評価項目を列挙する<br>→グループ学習を主体とする．事例の基本情報を各班ごとに提示しその情報から考えられる，必要な評価項目の列挙を行ってもらう．あがった評価項目に対するリーズニングを作成する | 村仲 |
| 第 2 回<br>第 3 回 | 上記事例に対する　形成的評価の準備（練習）． | 村仲<br>村仲 |
| 第 4 回<br>第 5 回 | 形成的評価 | 村仲<br>村仲 |
| 第 6 回 | 事例（事例 2）の提示　事例に相応しい評価項目を列挙する<br>→グループ学習を主体とする．事例の基本情報を各班ごとに提示しその情報から考えられる，必要な評価項目の列挙を行ってもらう．あがった評価項目に対するリーズニングを作成する | 村仲 |
| 第 7 回<br>第 8 回 | 上記事例に対する　形成的評価の準備（練習）． | 村仲<br>村仲 |
| 第 9 回<br>第 10 回 | 形成的評価 | 村仲<br>村仲 |
| 第 11 回<br>第 12 回<br>第 13 回<br>第 14 回 | 残り４コマは、上記 2 事例から明らかになった評価法技術の演習の課題点の修正や OSCE に向けた個人別の練習を実施する． | 村仲<br>村仲<br>村仲<br>村仲 |
| 第 15 回 | テスト | 村仲 |

| 科目名 | 評価実習Ⅰ | 対象学科 | | 作業療法学科 | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | 開講学年 | | 3学年 | |
| 指定規則科目区分 | 専門分野 | 講義形態 | 実習 | 単位 | 8単位 |
| | 臨床実習 | コマ数 | | 時間数 | 135時間 |
| 担当教員<br>(◎印は科目責任者) | ◎　髙橋　知之 | | | | |
| 授業概要 | ・指導者のもとで、情報収集・検査測定から治療プログラム立案までの一連の作業療法評価について、見学・模倣・実践の臨床参加型実習（クラークシップ）を行う。 | | | | |
| 到達目標 | ①指導者の行う、作業療法の業務、患者（利用者）様との接し方、他スタッフとの連携の仕方を見学できる。<br>②様々な作業療法対象疾患に関わり、その症状や障害像を教科書的知識と比較検討することができる。<br>③指導者の評価・治療場面を見学する。指導者が可能と判断した場合には、一部の検査などを実施することができる。<br>④患者（対象者）に関する、処方箋や実際の治療場面を見学し、必要な観察、面接、検査・測定などの評価項目を列挙し、その理由を説明することができる。<br>⑤指導者が実施した評価項目に関して、その実施理由と評価結果から分かることを理解することができる。<br>⑥指導者が実施している治療に関して、その実施理由について理解することができる。<br>⑦可能であれば指導者の指導の下で、評価や治療の一部を実践することができる。<br>⑧作業療法部門の管理運営に協力し、準備や片付けなどを行うことができる。 | | | | |
| 教科書 | なし | | | | |
| 参考書 | 各教科書 | | | | |
| 成績評価方法 | ポートフォリオ | | | 計 | |
| | 100　点 | 点 | 点 | 100点 | |
| 予習･復習のﾎﾟｲﾝﾄ | | | | | |

| 授業計画 | | |
|---|---|---|
| | 1．プレ実習<br>目的：評価実習に向けて、知識・技術の整理、確認を行う。<br>内容：個人及びグループにて、分野別学習・実技練習を行う。<br>知識に関しては、確認試験を行う。<br>実技に関しては、形成的評価を含む実技試験を行う。<br>実習目標を定める | 学内 |
| | 2.現地実習（18日間）<br>【1週目】<br>カルテ・処方箋を見る。<br>検査測定・治療場面等を見学。ADL場面観察（フロアでの様子、更衣、食事、移動など）。<br>検査測定、情報収集項目を列挙→指導者の考えを提示していただき、その思考過程を学ぶ。<br>【2週目】<br>実習指導者から情報収集と可能な範囲での検査測定などの実施。<br>得られた情報から、問題点の列挙と焦点化、予後予測と治療目標を立案。<br>→指導者の考えを提示していただき、その思考過程を学ぶ。<br>【3～4週目】<br>一部検査の実施。治療目標と現在実施されている治療との関連を考える。<br>→指導者の考えを提示していただき、その思考過程を学ぶ。 | 病院施設 |
| | 3.事後セミナー（実習報告会）<br>目的：実習で得た知識・技術の見直しを行い、実習全体に対する振り返りを行う。また、実習で身につけた知識技術を確認する。<br>内容：実習で経験したことを報告する。 | 学内 |
| 備考 | 実習期間の５分の１を越えて欠席した場合は、その期の実習は無効とする。<br>成績は、出席状況、体験チェックリスト、セミナーや面談の結果、提出物を総合的に判定する。 | |

| 科目名 | 評価実習Ⅱ | 対象学科 | | 作業療法学科 | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | 開講学年 | | 3 学年 | |
| 指定規則科目区分 | 専門分野 | 講義形態 | 実習 | 単位 | 8 単位 |
| | 臨床実習 | コマ数 | | 時間数 | 135 時間 |
| 担当教員<br>(◎印は科目責任者) | ◎　髙橋　知之 | | | | |
| 授業概要 | ・指導者のもとで、情報収集・検査測定から治療プログラム立案までの一連の作業療法評価について、見学・模倣・実践の臨床参加型実習（クラークシップ）を行う。 | | | | |
| 到達目標 | ①指導者の行う、作業療法の業務、患者（利用者）様との接し方、他スタッフとの連携の仕方を見学できる。<br>②様々な作業療法対象疾患に関わり、その症状や障害像を教科書的知識と比較検討することができる。<br>③指導者の評価・治療場面を見学する。指導者が可能と判断した場合には、一部の検査などを実施することができる。<br>④患者（対象者）に関する、処方箋や実際の治療場面を見学し、必要な観察、面接、検査・測定などの評価項目を列挙し、その理由を説明することができる。<br>⑤指導者が実施した評価項目に関して、その実施理由と評価結果から分かることを理解することができる。<br>⑥指導者が実施している治療に関して、その実施理由について理解することができる。<br>⑦可能であれば指導者の指導の下で、評価や治療の一部を実践することができる。<br>⑧作業療法部門の管理運営に協力し、準備や片付けなどを行うことができる。 | | | | |
| 教科書 | なし | | | | |
| 参考書 | 各教科書 | | | | |
| 成績評価方法 | ポートフォリオ | | | 計 | |
| | 100　点 | 点 | 点 | 100 点 | |
| 予習･復習のﾎﾟｲﾝﾄ | | | | | |

| 授業計画 | | |
|---|---|---|
| | 1．プレ実習<br>目的：評価実習に向けて、知識・技術の整理、確認を行う。<br>内容：個人及びグループにて、分野別学習・実技練習を行う。<br>知識に関しては、確認試験を行う。<br>実技に関しては、形成的評価を含む実技試験を行う。<br>実習目標を定める | 学内 |
| | 2.現地実習（18 日間）<br>【1 週目】<br>カルテ・処方箋を見る。<br>検査測定・治療場面等を見学。ADL 場面観察（フロアでの様子、更衣、食事、移動など）。<br>検査測定、情報収集項目を列挙→指導者の考えを提示していただき、その思考過程を学ぶ。<br>【2 週目】<br>実習指導者から情報収集と可能な範囲での検査測定などの実施。<br>得られた情報から、問題点の列挙と焦点化、予後予測と治療目標を立案。<br>→指導者の考えを提示していただき、その思考過程を学ぶ。<br>【3～4 週目】<br>一部検査の実施。治療目標と現在実施されている治療との関連を考える。<br>→指導者の考えを提示していただき、その思考過程を学ぶ。 | 病院施設 |
| | 3.事後セミナー（実習報告会）<br>目的：実習で得た知識・技術の見直しを行い、実習全体に対する振り返りを行う。また、実習で身につけた知識技術を確認する。<br>内容：実習で経験したことを報告する。<br>中心的に関わらせていただいたケースについてのまとめのレジュメを作成する。 | 学内 |
| 備考 | 実習期間の５分の１を越えて欠席した場合は、その期の実習は無効とする。<br>成績は、出席状況、体験チェックリスト、セミナーや面談の結果、提出物を総合的に判定する。 | |

| 科目名 | 総合臨床実習Ⅰ | 対象学科 | | 作業療法学科 | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | 開講学年 | | 3学年 | |
| 指定規則科目区分 | 専門分野 | 講義形態 | 実習 | 単位 | 3単位 |
| | 臨床実習 | コマ数 | | 時間数 | 360時間 |
| 担当教員<br>(◎印は科目責任者) | ◎　髙橋　知之 | | | | |
| 授業概要 | ・指導者のもとで、情報収集・検査測定から治療プログラム立案、作業療法実施とその振り返りまでの一連の作業療法過程について、見学・模倣・実践の**臨床参加型実習（クラークシップ）**を行う。 | | | | |
| 到達目標 | ①指導者の行う、作業療法の業務、患者（利用者）様との接し方、他スタッフとの連携の仕方を見学できる。<br>②様々な作業療法対象疾患に関わり、その症状や障害像を教科書的知識と比較検討することができる。<br>③指導者の評価・治療場面を見学する。指導者が可能と判断した場合には、一部の検査などを実施することができる。<br>④患者（対象者）に関する、処方箋や実際の治療場面を見学し、必要な観察、面接、検査・測定などの評価項目を列挙し、その理由を説明することができる。<br>⑤指導者が実施した評価項目に関して、その実施理由と評価結果から分かることを理解することができる。<br>⑥指導者が実施している治療に関して、その実施理由について理解することができる。<br>⑦可能であれば指導者の指導の下で、評価や治療の一部を実践することができる。<br>⑧作業療法部門の管理運営に協力し、準備や片付けなどを行うことができる。 | | | | |
| 教科書 | なし | | | | |
| 参考書 | 各教科書 | | | | |
| 成績評価方法 | ポートフォリオ | | | 計 | |
| | 100　点 | 点 | 点 | 100点 | |
| 予習･復習のﾎﾟｲﾝﾄ | | | | | |

| 授業計画 | |
|---|---|
| 1．プレ実習<br>目的：評価実習に向けて、知識・技術の整理、確認を行う。<br>内容：個人及びグループにて、分野別学習・実技練習を行う。<br>知識に関しては、確認試験を行う。<br>実技に関しては、形成的評価を含む実技試験を行う。<br>実習目標を定める | 学内 |
| 2.現地実習（48日間）<br>【1週目】<br>カルテ・処方箋を見る。<br>治療場面（評価含む）見学。ADL場面観察（フロアでの様子、更衣、食事、移動など）<br>検査測定、情報収集項目を列挙　**指導者の考えを提示していただき、その思考過程を学ぶ。**<br>【2週目】<br>項目を元に情報収集と一部検査の実施。得られた情報から、問題点の列挙と焦点化<br>予後予測とゴールを含めた**指導者の考えを提示していただき、その思考過程を学ぶ。**<br>【3～4週目】<br>一部検査の実施。治療目標と現在実施されている治療との関連を考える | 病院<br>施設 |

| | | |
|---|---|---|
| | **指導者の考えを提示していただき、その思考過程を学ぶ。**<br>【5～7 週目】<br>一部治療の実施。治療目標に沿った治療を立案・実施し、対象者の変化を捉える<br>**指導者の考えを提示していただき、その思考過程を学ぶ。**<br>【8～10 週目】<br>一部検査の実施、対象者の変化を捉え、治療の効果判定の思考過程を学ぶ。<br>**指導者の考えを提示していただき、その思考過程を学ぶ。** | |
| | 3.事後セミナー（実習報告会）<br>目的：実習で得た知識・技術の見直しを行い、実習全体に対する振り返りを行う。また、実習で身につけた知識技術を確認する。<br>内容：実習で経験したことを報告する。<br>中心的に関わらせていただいたケースについてのまとめのレジュメを作成する。 | 学内 |
| 備考 | 実習期間の５分の１を越えて欠席した場合は、その期の実習は無効とする。<br>成績は、出席状況、体験チェックリスト、セミナーや面談の結果、提出物を総合的に判定する。 | |

| 科目名 | 評価実習Ⅱ | 対象学科 | | 作業療法学科 | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | 開講学年 | | 4学年 | |
| 指定規則科目区分 | 専門分野 | 講義形態 | 実習 | 単位 | 3単位 |
| | 臨床実習 | コマ数 | | 時間数 | 360時間 |
| 担当教員<br>（◎印は科目責任者） | ◎　髙橋　知之 | | | | |
| 授業概要 | ・指導者のもとで、情報収集・検査測定から治療プログラム立案、作業療法実施とその振り返りまでの一連の作業療法過程について、見学・模倣・実践の**臨床参加型実習（クラークシップ）**を行う。 | | | | |
| 到達目標 | ①指導者の行う、作業療法の業務、患者（利用者）様との接し方、他スタッフとの連携の仕方を見学できる。<br>②様々な作業療法対象疾患に関わり、その症状や障害像を教科書的知識と比較検討することができる。<br>③指導者の評価・治療場面を見学する。指導者が可能と判断した場合には、一部の検査などを実施することができる。<br>④患者（対象者）に関する、処方箋や実際の治療場面を見学し、必要な観察、面接、検査・測定などの評価項目を列挙し、その理由を説明することができる。<br>⑤指導者が実施した評価項目に関して、その実施理由と評価結果から分かることを理解することができる。<br>⑥指導者が実施している治療に関して、その実施理由について理解することができる。<br>⑦可能であれば指導者の指導の下で、評価や治療の一部を実践することができる。<br>⑧作業療法部門の管理運営に協力し、準備や片付けなどを行うことができる。 | | | | |
| 教科書 | なし | | | | |
| 参考書 | 各教科書 | | | | |
| 成績評価方法 | ポートフォリオ | | | 計 | |
| | 100　点 | 点 | 点 | 100点 | |
| 予習･復習のﾎﾟｲﾝﾄ | | | | | |

| 授業計画 | |
|---|---|
| 1．プレ実習<br>目的：評価実習に向けて、知識・技術の整理、確認を行う。<br>内容：個人及びグループにて、分野別学習・実技練習を行う。<br>知識に関しては、確認試験を行う。<br>実技に関しては、形成的評価を含む実技試験を行う。<br>実習目標を定める | 学内 |
| 2.現地実習（45日間　360時間）<br>【1週目】<br>カルテ・処方箋を見る。<br>治療場面（評価含む）見学。ADL場面観察（フロアでの様子、更衣、食事、移動など）<br>検査測定、情報収集項目を列挙　**指導者の考えを提示していただき、その思考過程を学ぶ。**<br>【2週目】<br>項目を元に情報収集と一部検査の実施。得られた情報から、問題点の列挙と焦点化<br>予後予測とゴールを含めた**指導者の考えを提示していただき、その思考過程を学ぶ。**<br>【3～4週目】<br>一部検査の実施。治療目標と現在実施されている治療との関連を考える | 病院<br>施設 |

| | | |
|---|---|---|
| | **指導者の考えを提示していただき、その思考過程を学ぶ。**<br>【5～7 週目】<br>一部治療の実施。治療目標に沿った治療を立案・実施し、対象者の変化を捉える<br>**指導者の考えを提示していただき、その思考過程を学ぶ。**<br>【8～10 週目】<br>一部検査の実施、対象者の変化を捉え、治療の効果判定の思考過程を学ぶ。<br>**指導者の考えを提示していただき、その思考過程を学ぶ。** | |
| | 3.事後セミナー（実習報告会）<br>目的：実習で得た知識・技術の見直しを行い、実習全体に対する振り返りを行う。また、実習で身につけた知識技術を確認する。<br>内容：実習で経験したことを報告する。<br>中心的に関わらせていただいたケースについてのまとめのレジュメを作成する。 | 学内 |
| 備考 | 実習期間の５分の１を越えて欠席した場合は、その期の実習は無効とする。<br>成績は、出席状況、体験チェックリスト、セミナーや面談の結果、提出物を総合的に判定する。 | |